

#### (4) 保護者の心身の状況やこれまでの体験

保護者自身の健康状態は、全体では健康状態が『よい』（「よい」「まあよい」の合計）が63.8%となっている。困窮家庭の保護者は健康状態がよいという回答が少なく、『よくない』（「よくない」「あまりよくない」の合計）は21.0%と多い。

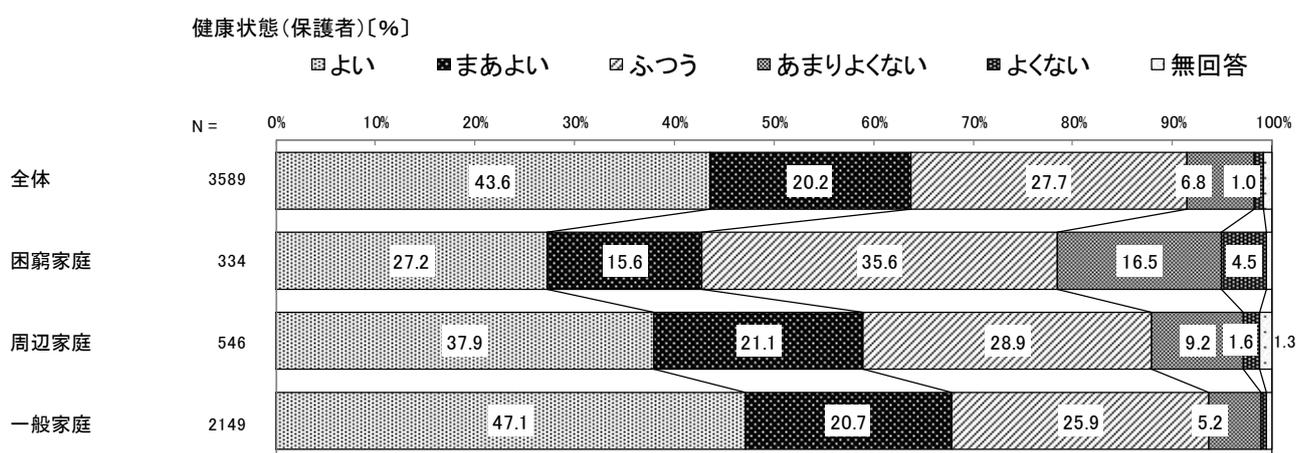
保護者の15歳の頃の家庭の暮らし向きについて、困窮家庭で「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせると42.5%と多く、成人前の経験で「両親の離婚」、「親から暴力を振るわれた」がともに多くなっている。子どもを持ってからの経験は、困窮家庭では「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」が26.0%、「自殺を考えたことがある」が23.4%、「子どもに行き過ぎたしつけや体罰を与えたことがある」が22.8%などの回答が多くみられる。

自己肯定感や子育て感について、生活困難家庭は各項目で低調な傾向がみられる。

##### ① 保護者の健康状態

問 32 あなたの健康状態についてお伺いします。

保護者自身の健康状態は、全体では「よい」が43.6%と多く、「まあよい」「ふつう」をあわせると保護者の91.5%となるが、困窮家庭では78.4%と少なく、「あまりよくない」「よくない」が多くなっている。



##### ② 保護者のこれまでの体験

[成人する前の体験]

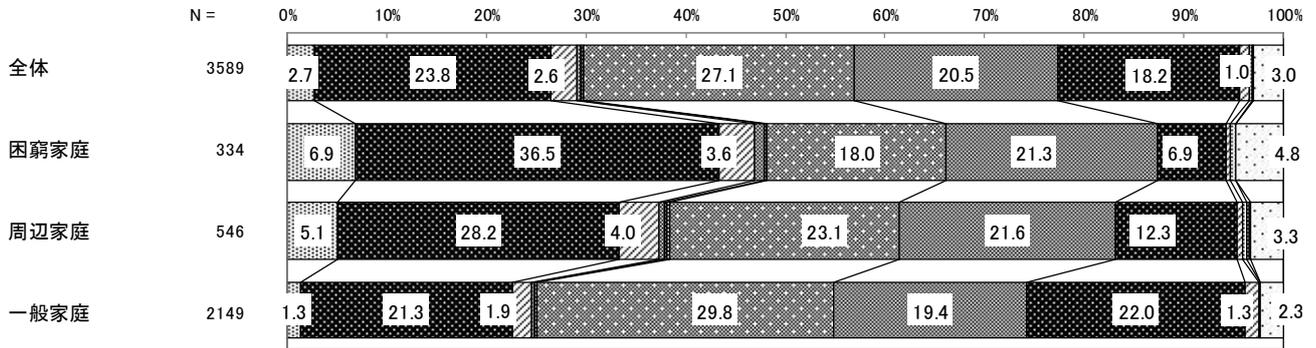
問 33 お子さんのお母さん、お父さんの最終学歴は次のどちらにあたりますか。

母親の最終学歴は、全体で「短期大学」が27.1%と多く、「高等学校(全日制)」が23.8%、「専門学校(高校卒業後1～4年間程度の専修学校専門課程)」が20.5%と続いている。困窮家庭では、「高等学校(全日制)」が36.5%と多い。

父親の最終学歴は、全体で「大学」が33.6%と多く、「高等学校(全日制)」が23.0%、「専門学校(高校卒業後1～4年間程度の専修学校専門課程)」が16.7%と続いている。困窮家庭では、無回答(22.5%)を除くと、「高等学校(全日制)」が25.4%と多く、ついで「専門学校(高校卒業後1～4年間程度の専修学校専門課程)」が15.0%、「中学校」が12.3%となっている。

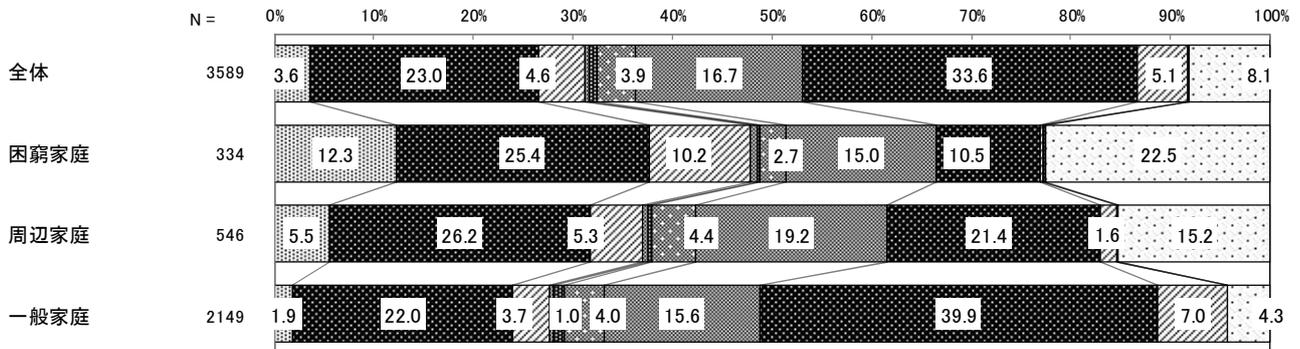
母親の最終学歴[%]

- 中学校
- ▨ 高等学校(定時制または通信制)
- 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)
- ▩ 専門学校(高校卒業後1~4年間程度の専修学校専門課程)
- 大学院
- わからない
- 高等学校(全日制)
- ▩ 高等専修学校(中学校卒業後に進む1~4年間の専修学校)
- ▨ 短期大学
- 大学
- その他
- 無回答



父親の最終学歴[%]

- 中学校
- ▨ 高等学校(定時制または通信制)
- 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)
- ▩ 専門学校(高校卒業後1~4年間程度の専修学校専門課程)
- 大学院
- わからない
- 高等学校(全日制)
- ▩ 高等専修学校(中学校卒業後に進む1~4年間の専修学校)
- ▨ 短期大学
- 大学
- その他
- 無回答

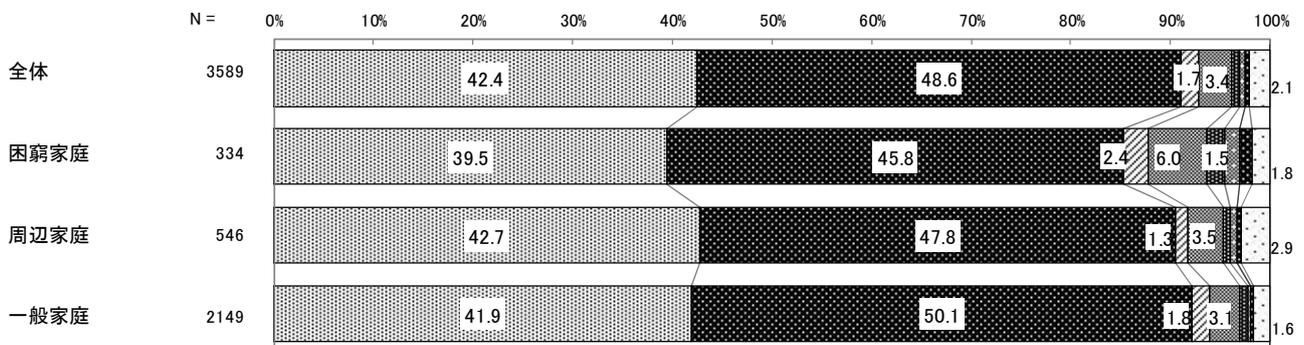


問 34 あなたが15歳の頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。

全体で、「両親世帯(祖父母との同居なし)」が48.6%、「両親世帯(祖父母との同居あり)」が42.4%と多く、「母子世帯(祖父母との同居なし)」は3.4%である。困窮家庭では「母子世帯(祖父母なし)」が6.0%とやや多くみられる。

15歳の頃の家庭の様子[%]

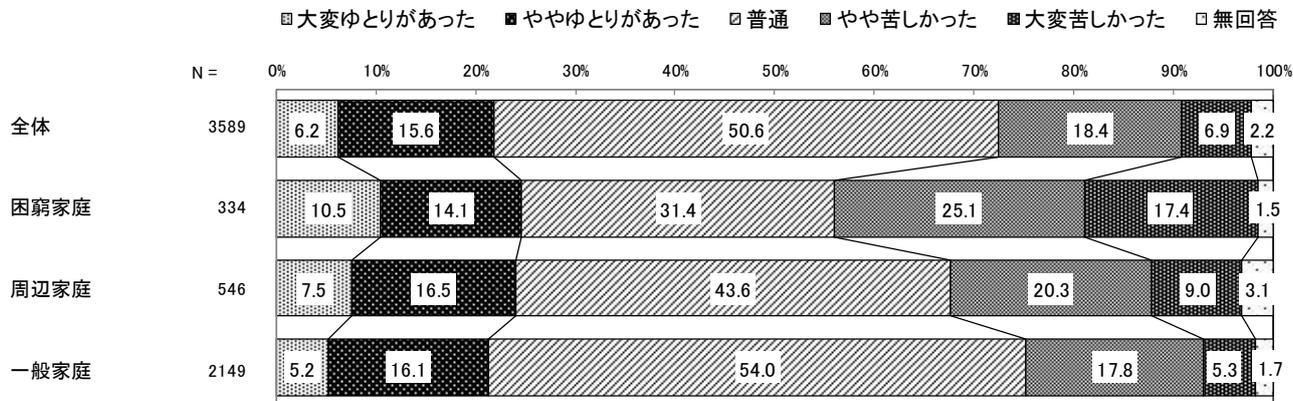
- ▩ 両親世帯(祖父母との同居あり)
- ▨ 両親世帯(祖父母との同居なし)
- ▩ 母子世帯(祖父母との同居あり)
- ▨ 母子世帯(祖父母との同居なし)
- ▩ 父子世帯(祖父母との同居あり)
- ▨ 父子世帯(祖父母との同居なし)
- ▩ 児童養護施設などの施設
- その他
- 無回答



保護者の15歳の頃の家庭の暮らしは、全体では「普通」が50.6%だが、困窮家庭は31.4%で、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」が多く、合わせると42.5%である。

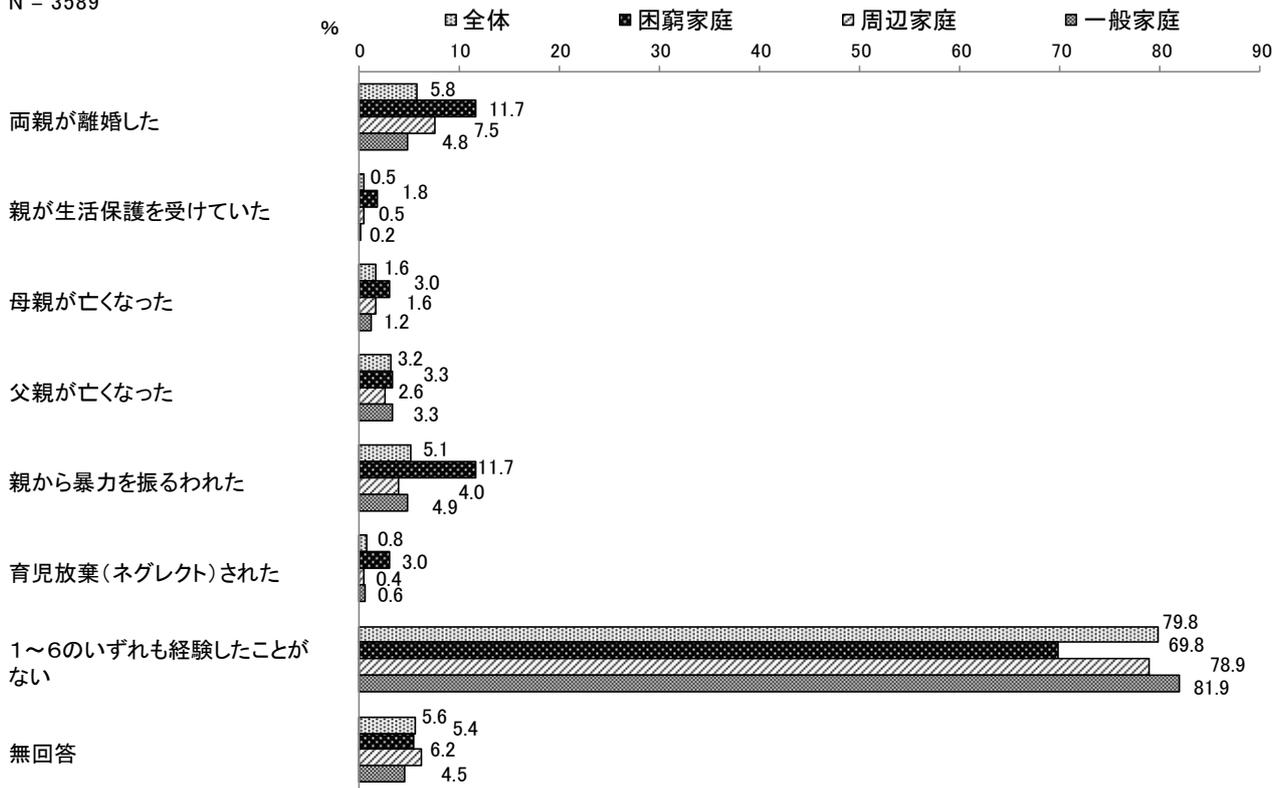
成人前の体験については、全体では79.8%が「いずれの経験もしたことがない」と回答しているが、「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」は困窮家庭でともに11.7%回答されている。

15歳の頃の家庭の暮らし向き[%]



成人する前にした体験[%・複数回答]

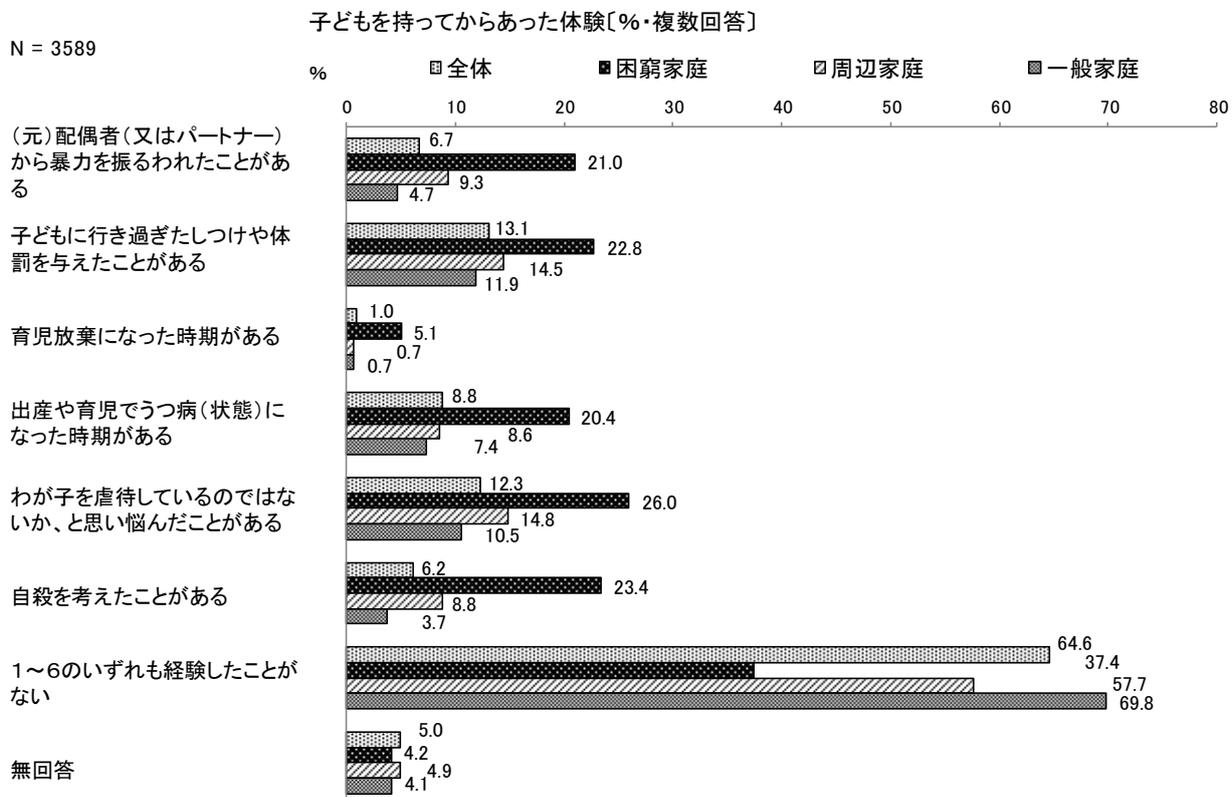
N = 3589



[子どもを持ってからの体験]

問 35 あなたはお子さんを持ってから、以下のような経験をしたことがありますか。

子どもを持ってからあった体験として、困窮家庭では「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が 26.0%と多く、「自殺を考えたことがある」が 23.4%、「子どもに行き過ぎたしつけや体罰を与えたことがある」が 22.8%など多くの項目で 20%以上の回答となっている。



### ③保護者自身のことや子育てに関すること

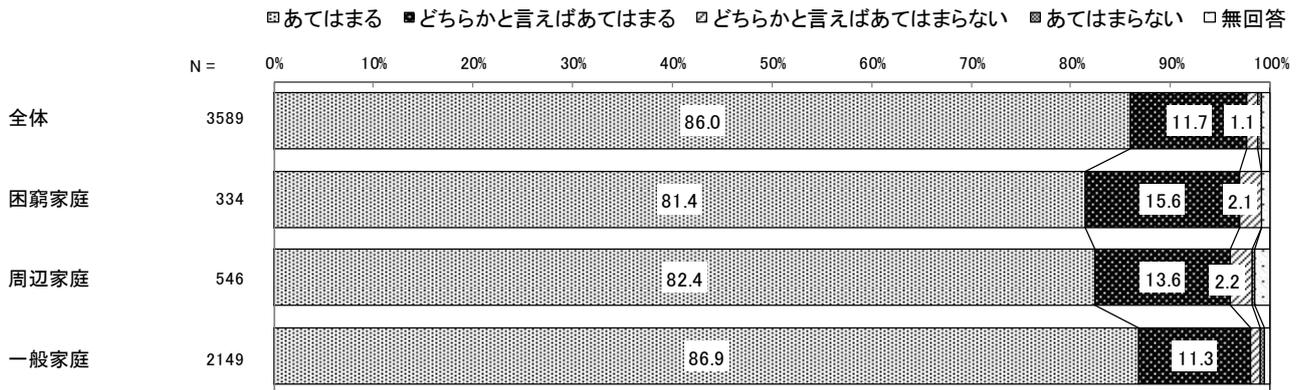
問 36 あなたの気持ちをお聞かせください。

子どもの成長が楽しみ(「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の合計)という回答は、全体では97.7%と大半を占めており、困窮家庭においても97.0%と多い。

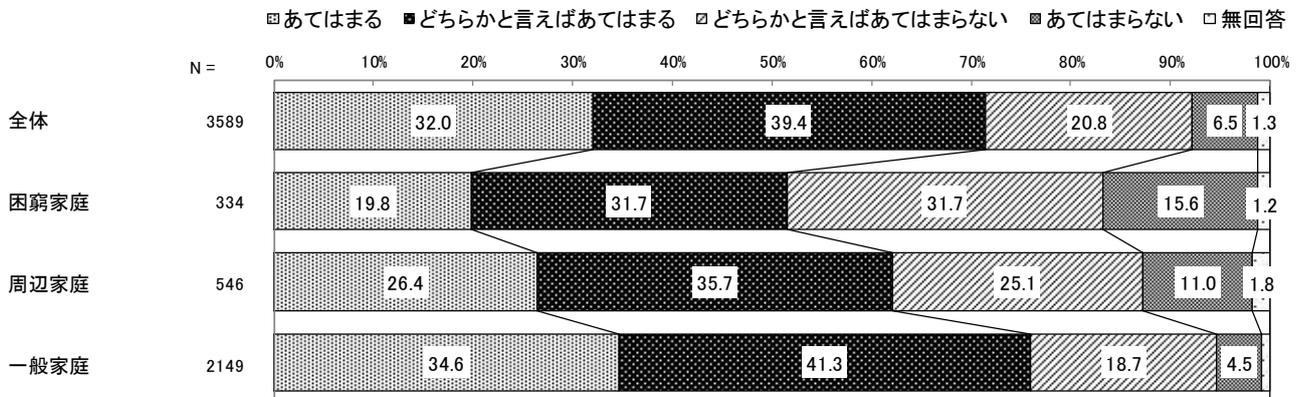
自分の将来に希望を持っているか(「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の合計)は、全体では71.4%だが、困窮家庭では51.5%、周辺家庭は62.1%と少ない。

自分は幸せだと思う(「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の合計)は、全体では90.9%だが、困窮家庭では73.9%と少ない。

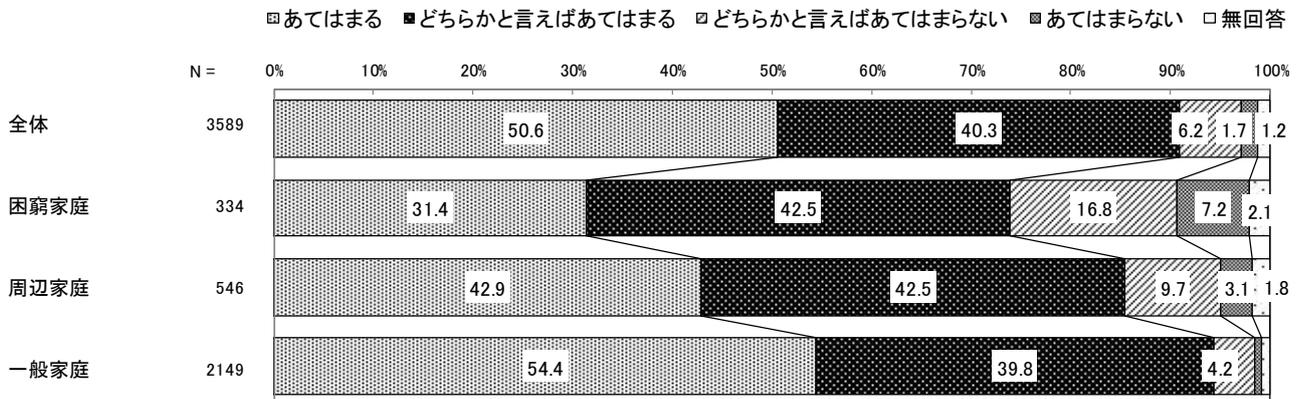
子どもの成長が楽しみ[%]



自分の将来に希望を持っている[%]



自分は幸せだと思う[%]



## (5) 子育て・教育に関すること

理想的な教育段階は全体では「大学」が多いが、現実的な教育段階は、困窮家庭では「高校」が51.3%と一般家庭に比べて多く、周辺家庭では「高校」と「大学」が25%前後である。教育段階の理想と現実の違いの理由で、「経済的な余裕がないから」は困窮家庭で86.2%、周辺家庭で68.3%と多い。

頼れる親族や友人は全体では「いる」が85.6%と多いが、困窮家庭では「いない」が24.0%と、一般家庭に比べてやや多く回答されている。子育てで大変だと思うことは、全体では「将来の進学のための学費の貯金等」「教育費の確保」「子どもの受験・進学」、「学習習慣の定着・学力の向上」などの回答が多く、子どもの学年によって異なっている。

ほとんどの回答者が子育てに関する「相談相手がいる」と回答しているが、生活困難家庭はやや少ない。

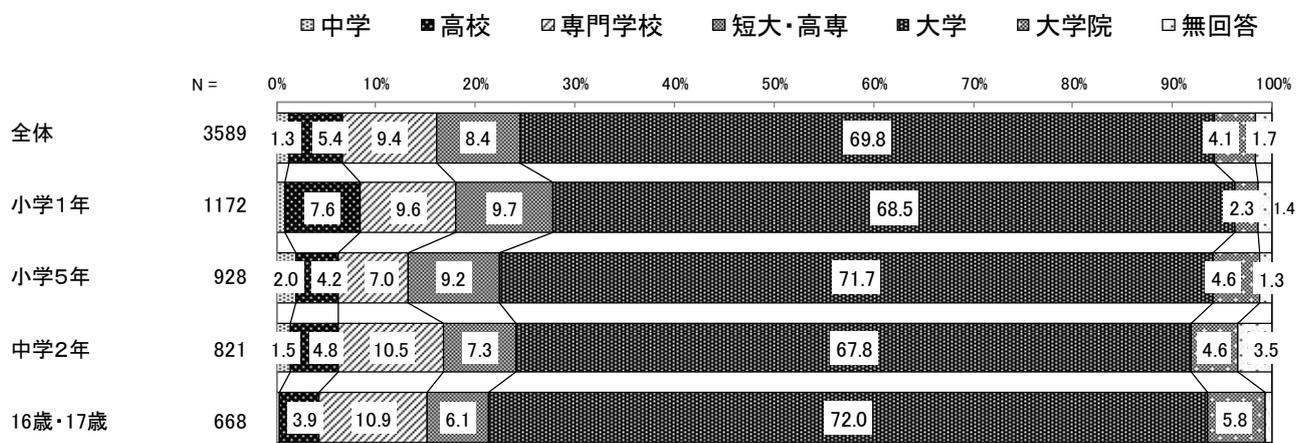
### ①教育に関すること

問 37 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。

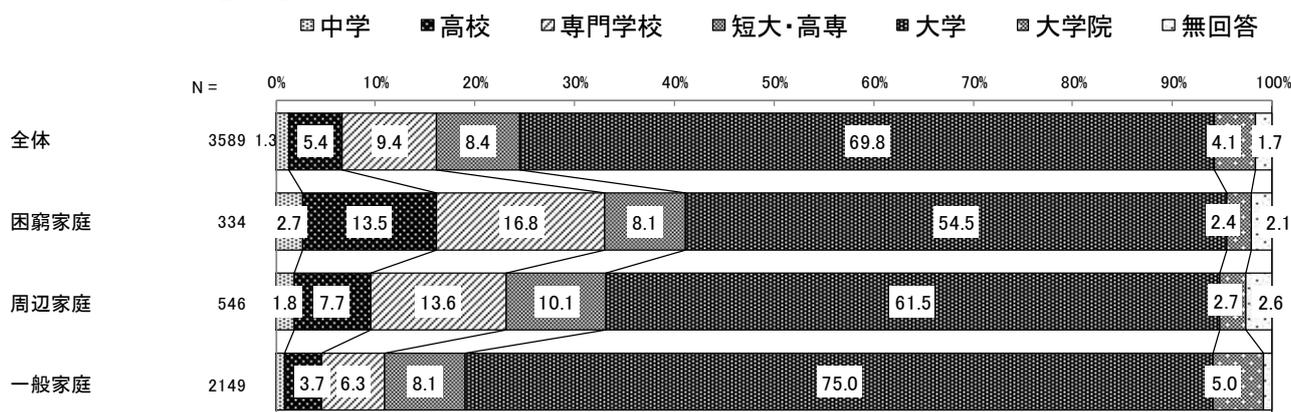
[子どもの教育で受けさせたい段階と現実的な段階]

全体では、「大学」が69.8%と多く、学年別にみても70%前後だが、困窮家庭では54.5%と少なくなり、「専門学校」が16.8%、「高校」が13.5%と一般家庭に比べて多い。一方、現実的な教育段階(小学1年以外)は全体で「大学」が47.7%と多く、学年別にみても40~50%台と多いが、困窮家庭では大学が8.8%と少なくなり、「高校」が51.3%で半数を占めている。

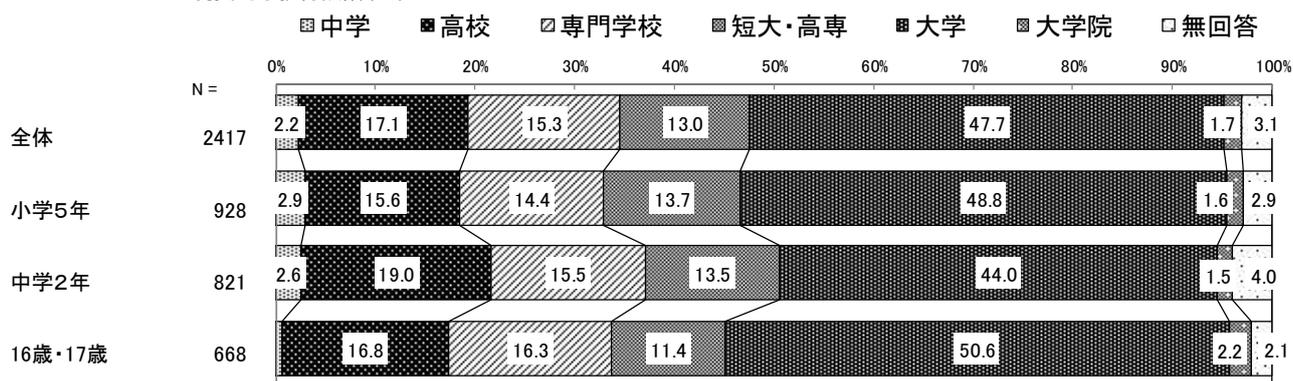
理想的な教育段階[%]



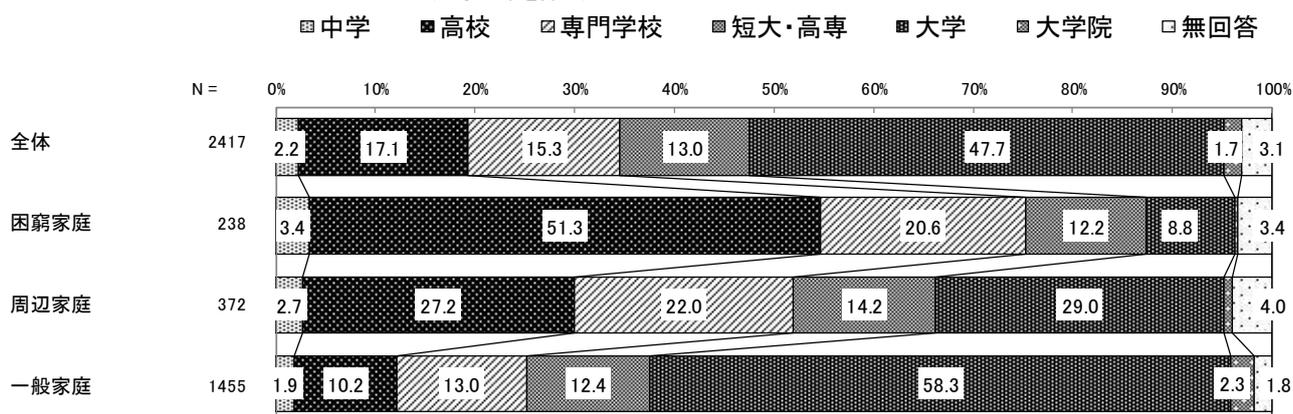
理想的な教育段階[%]



現実的な教育段階[%]



現実的な教育段階[%] (小学1年を除く)

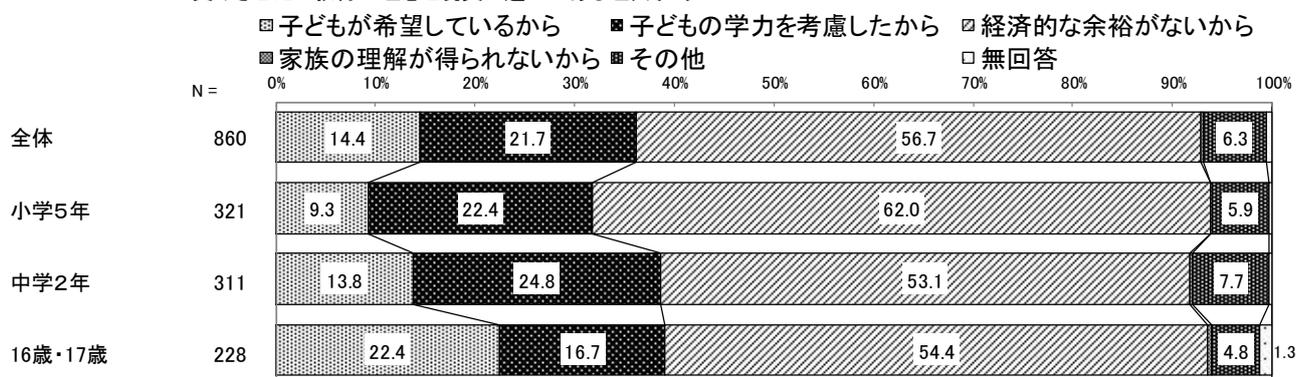


[理想の教育段階と現実的な段階の違いがある理由]

問 37-1 お子さんに理想と現実的な教育段階に違いがある方にお伺いします。あなたが、そのように考えた理由を選んでください。

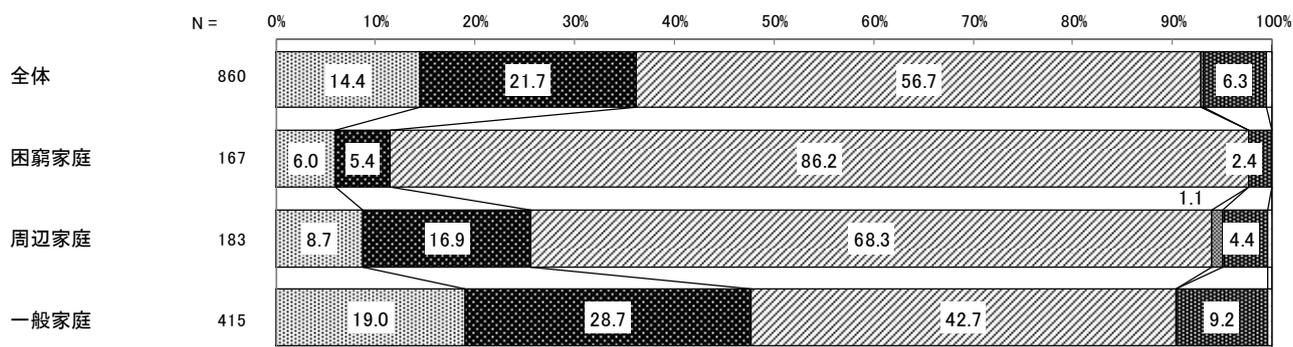
受けさせたい教育の理想と現実に違いがある理由として、全体では「経済的な余裕がないから」が56.7%、学年別でも各学年で50~60%台の回答となっており、全体との差はみられないが、困窮家庭では86.2%、周辺家庭では68.3%と多い。

受けさせたい教育の理想と現実に違いがある理由[%]



受けさせたい教育の理想と現実の違いがある理由[%]

子どもが希望しているから   
  子どもの学力を考慮したから   
  経済的な余裕がないから  
 家族の理解が得られないから   
  その他   
  無回答



## ②子育ての悩み・相談

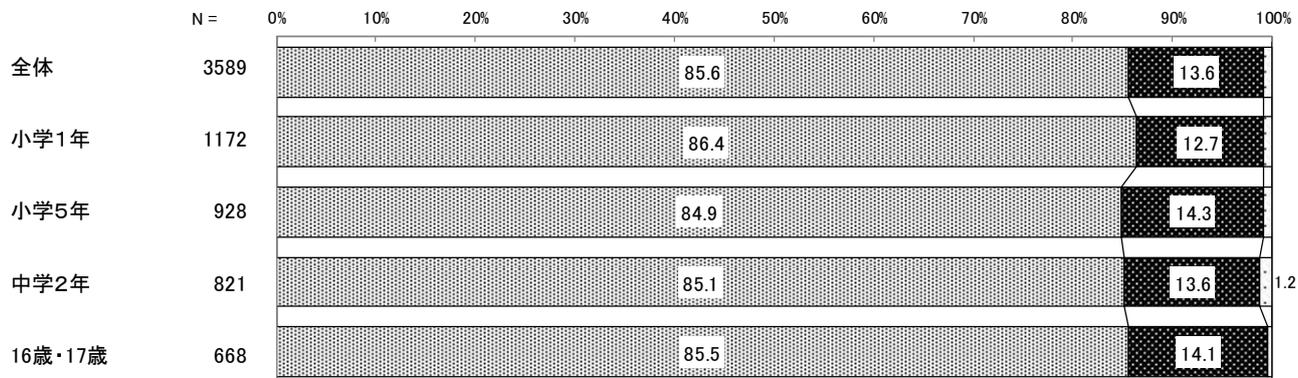
問 38 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。

[頼れる親戚や友人の有無]

全体では、85.6%は頼れる親戚や友人は「いる」と回答している。いずれの学年も「いる」が 85%前後と多い。困窮家庭では、「いる」が 75.4%で、一般家庭と比べて「いない」が 24.0%とやや多くなっている。

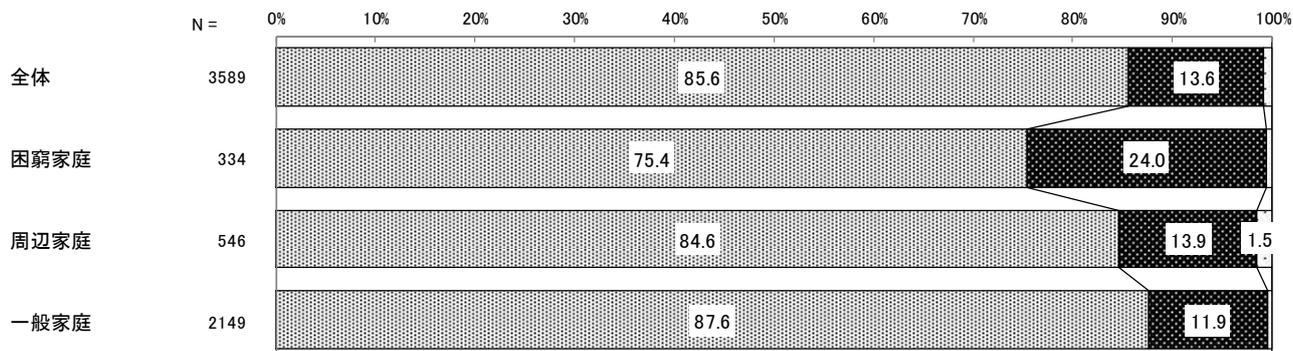
頼れる親戚や友人の有無[%]

いる   
  いない   
  無回答



頼れる親戚や友人の有無[%]

いる   
  いない   
  無回答



[子育てで大変だと思うこと]

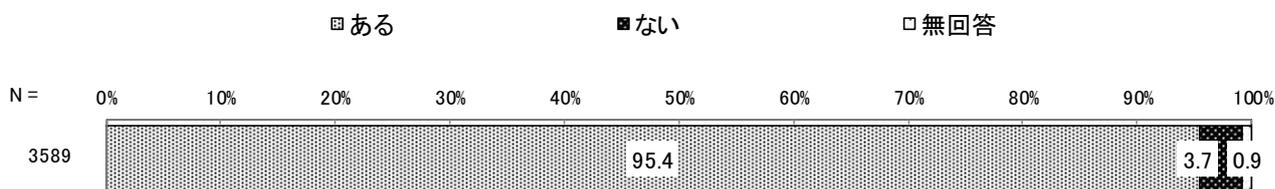
問 39 子育てをする上で、あなたが大変だと感じていること、悩んでいることを選んでください。

全体では、「将来の進学のための学費の貯金等」が 50.8%と最も多く、「教育費の確保」「子どもの受験・進学」「学習習慣の定着・学力の向上」がそれぞれ 40%台と多い。

学年別では、子どもの学年によって異なり、小学1年の保護者は「子どものしつけが難しいこと」や「子どもの健康管理・食生活」、小学5年や中学2年の保護者は「学習習慣の定着・学力の向上」がそれぞれ 45%前後と多い。中学2年と 16 歳・17 歳の保護者では「子どもの受験・進学」が 60%弱と多く、16 歳・17 歳の保護者は「子どもの将来の就職」も 52.1%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭で「将来の進学のための学費の貯金等」「生活費の確保」「教育費の確保」が 70%を超えており、全体に比べて特に多い。

子育てで大変なこと、悩んでいることの有無[%]



N=3,589

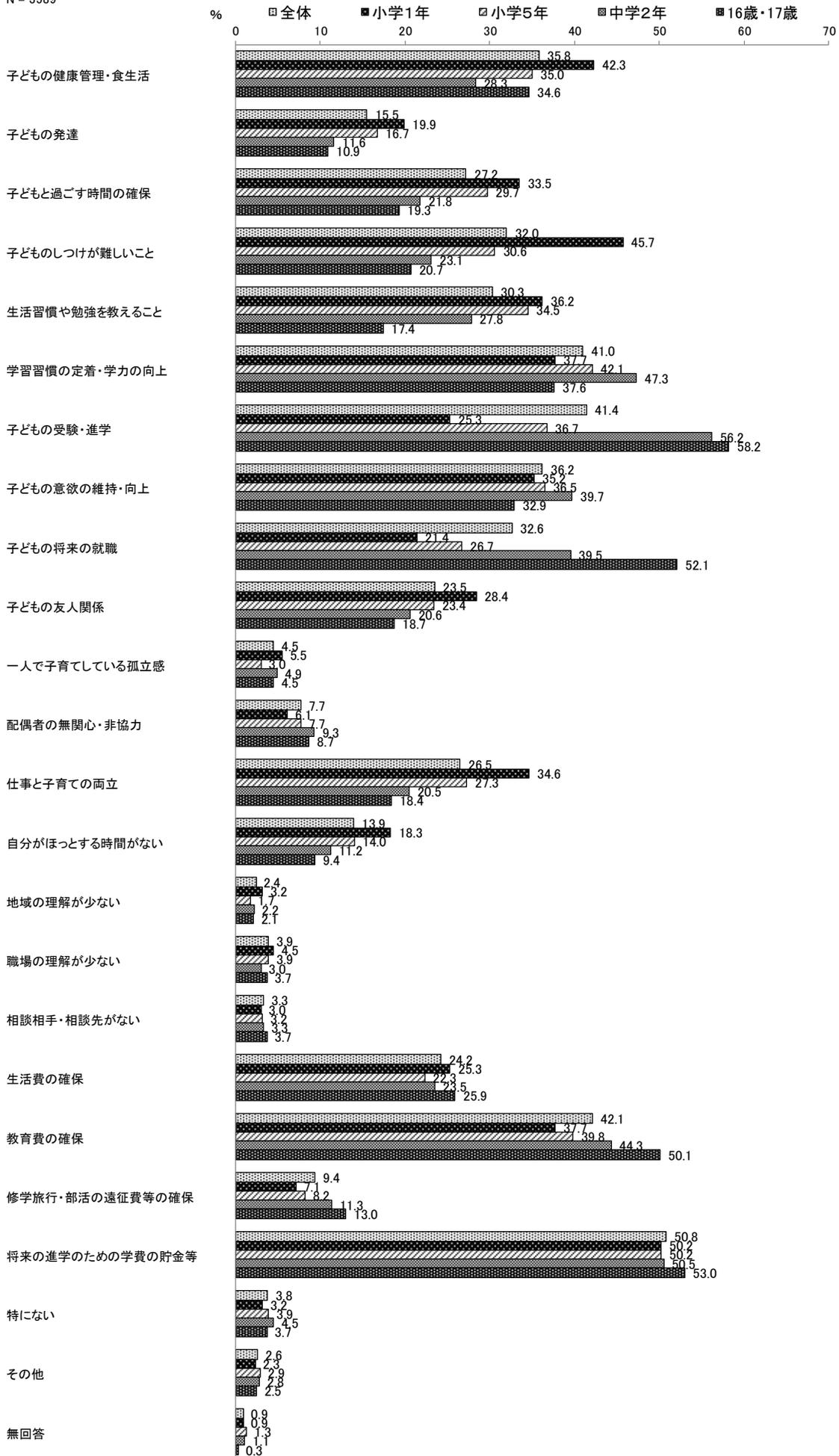
	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	将来の進学のための学費の貯金等 (50.8%)	教育費の確保 (42.1%)	子どもの受験・進学 (41.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.0%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.2%)
小学1年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	子どものしつけが難しいこと (45.7%)	子どもの健康管理・食生活 (42.3%)	教育費の確保 (37.7%) 学習習慣の定着・学力の向上 (37.7%)	
小学5年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (42.1%)	教育費の確保 (39.8%)	子どもの受験・進学 (36.7%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.5%)
中学2年	子どもの受験・進学 (56.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (50.5%)	学習習慣の定着・学力の向上 (47.3%)	教育費の確保 (44.3%)	子どもの意欲の維持・向上 (39.7%)
16 歳・17 歳	子どもの受験・進学 (58.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (53.0%)	子どもの将来の就職 (52.1%)	教育費の確保 (50.1%)	学習習慣の定着・学力の向上 (37.6%)

N=3,589

	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	将来の進学のための学費の貯金等 (50.8%)	教育費の確保 (42.1%)	子どもの受験・進学 (41.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.0%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.2%)
困窮家庭	将来の進学のための学費の貯金等 (76.9%)	生活費の確保 (74.9%)	教育費の確保 (74.6%)	子どもの受験・進学 (52.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (47.6%)
周辺家庭	将来の進学のための学費の貯金等 (60.8%)	教育費の確保 (59.5%)	子どもの受験・進学 (42.3%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.9%)	生活費の確保 (41.6%)
一般家庭	将来の進学のための学費の貯金等 (45.8%)	子どもの受験・進学 (40.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (39.2%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.3%)	教育費の確保 (35.2%)

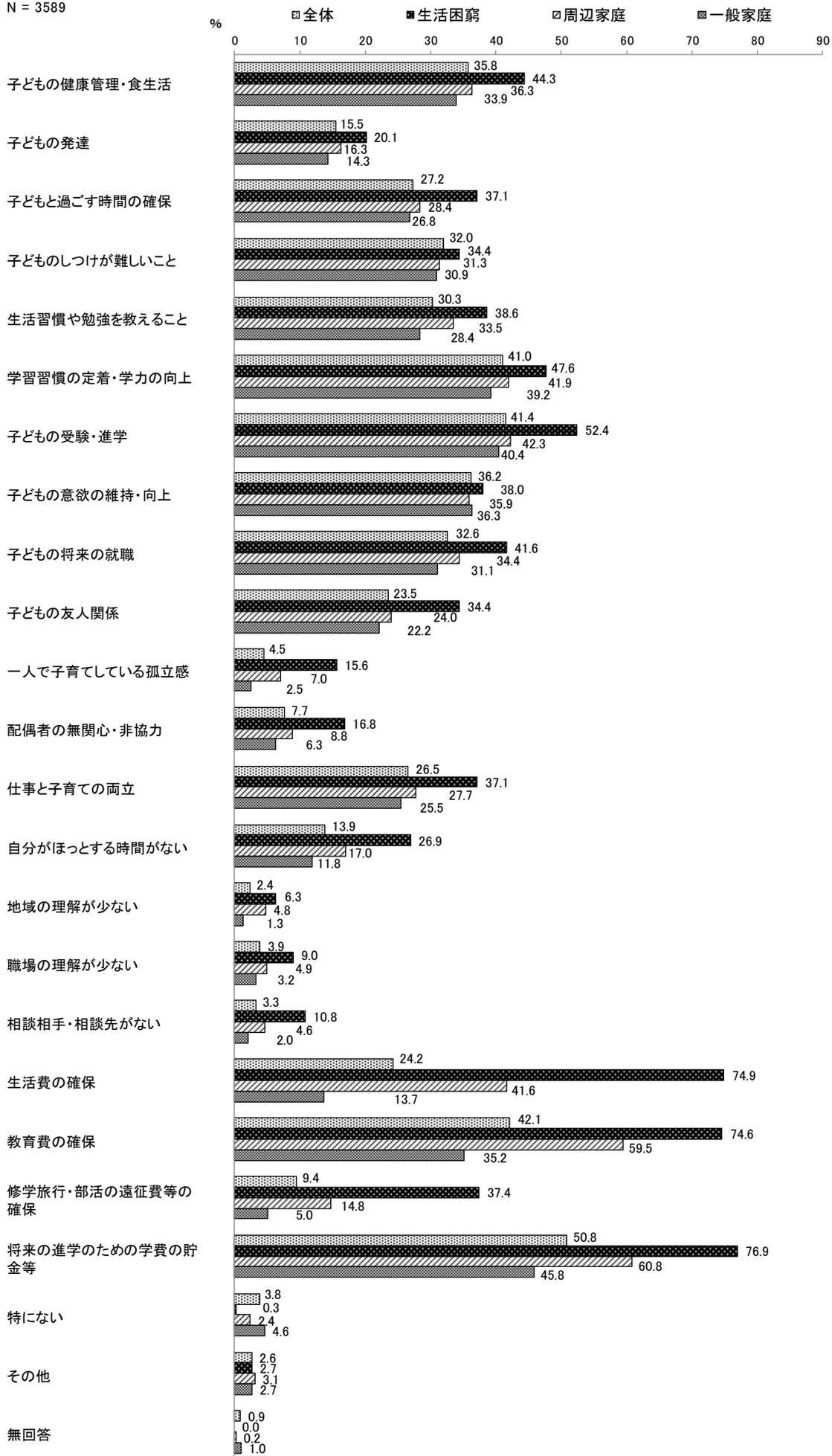
H問20 子育て上で大変だと感じていること[%・複数回答]

N = 3589



H問20 子育てで大変だと感じていること[%・複数回答]

N = 3589



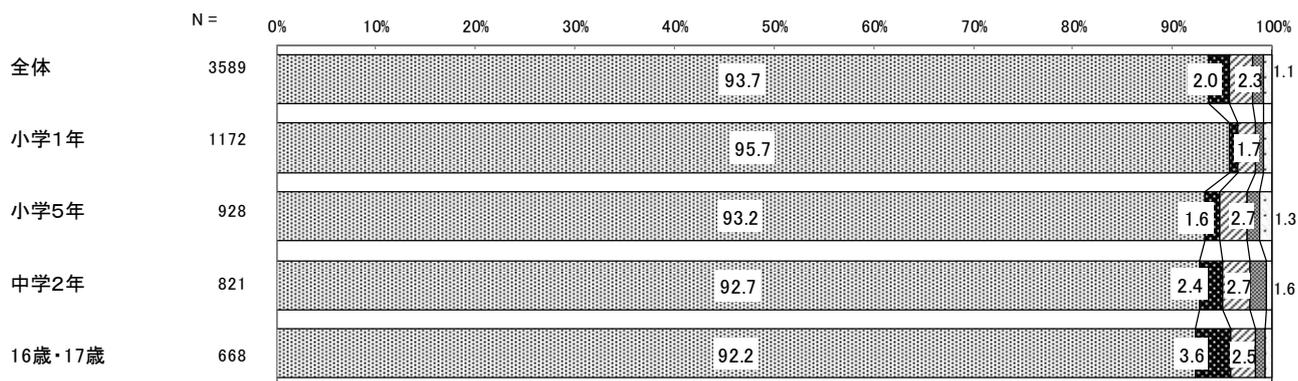
[保護者の相談相手]

問 40 あなたは、子育てに困ったり、悩んだとき、誰に相談しますか。

全体では、保護者の 93.7%は、子育てに困ったり悩んだときの「相談相手がいる」と回答している。各学年ともに同様の回答分布となっているが、困窮家庭では「相談相手がいる」の回答はやや少ない。

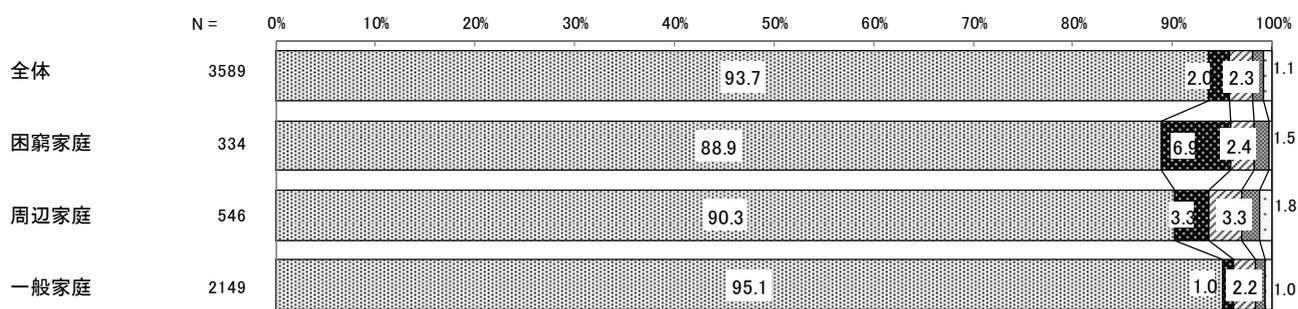
子育てに困ったり悩んだときの相談相手[%]

■相談相手がいる ■相談相手がない □相談しようと思わない ■その他 □無回答



子育てに困ったり悩んだときの相談相手[%]

■相談相手がいる ■相談相手がない □相談しようと思わない ■その他 □無回答



## (6) 公的支援施策に関すること

子どもに関する施策等の情報の希望の受け取り方法は、「学校からのお便り(紙のもの)」が最も多いが、「SNS(LINE、ツイッターなど)」は困窮家庭で多く回答されている。

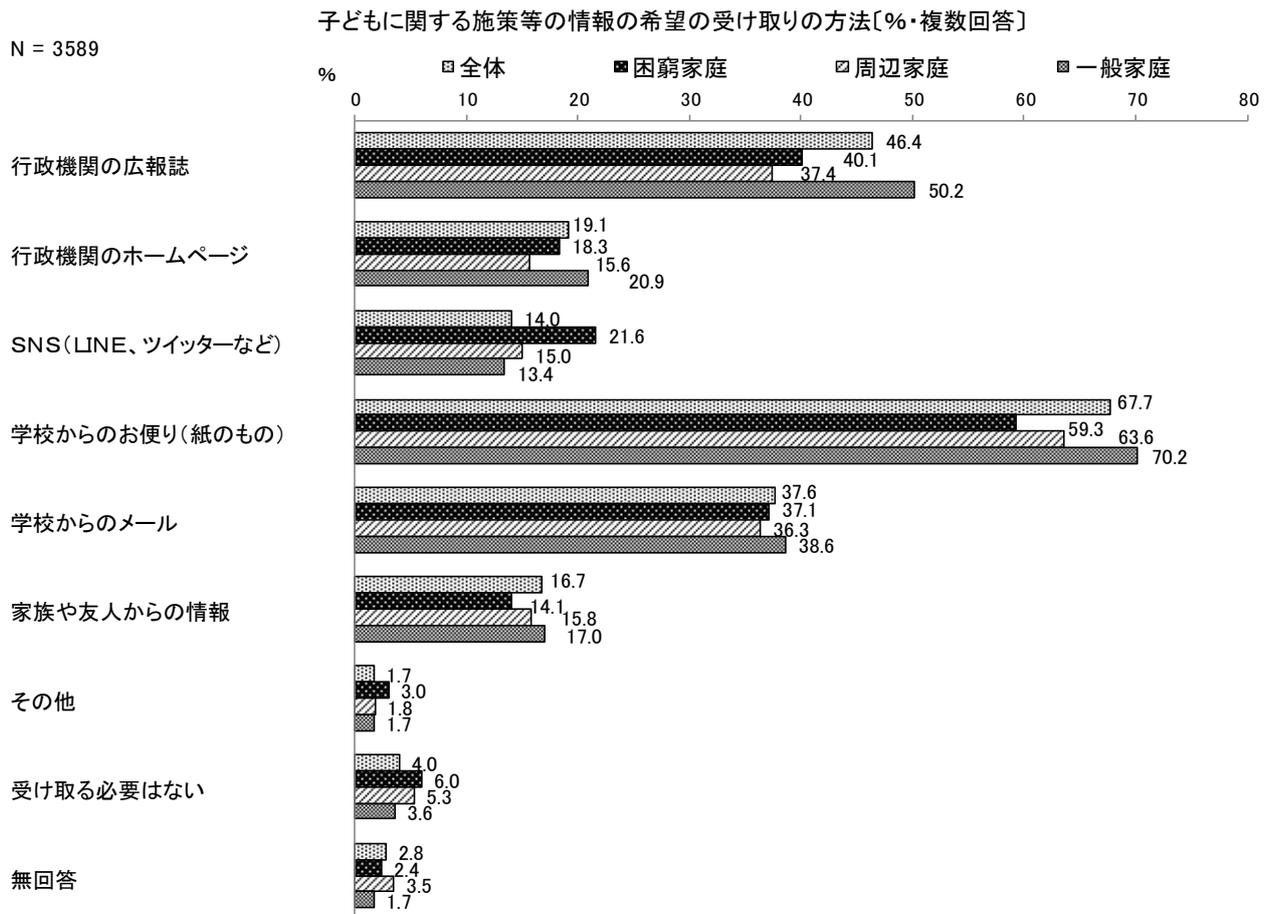
生活福祉資金と生活保護は「利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)」が全体ではそれぞれ 73.1%、82.3%と多くを占めているが、困窮家庭では生活福祉金は「制度等について全く知らなかった」が 29.6%と多い。相談窓口の利用状況は、子育て支援センター・つどいの広場と学校・保育所・幼稚園の先生などがいずれの区分も 30~40%前後と多い。困窮家庭では、市役所・町村役場の窓口も 22.5%と一般家庭に比べて多い。

支援サービスの利用希望は、困窮家庭で児童扶養手当や生活福祉資金に関する回答が 30%弱と多い。「子どもの就学に係る費用の軽減」は全体では 42.7%だが、困窮家庭では 54.8%と多い。

### ① 子どもに関する施策等の情報の希望の受け取り方法

問 41 あなたは、子どもに関する施策等の情報を、今後、どのような方法で受け取りたいですか。

全体では「学校からのお便り(紙のもの)」が 67.7%、「行政機関の広報誌」が 46.4%と多いが、困窮家庭は「学校からのお便り(紙のもの)」が 59.3%と一般家庭に比べてやや少なく、SNS(LINE、ツイッターなど)」が 21.6%と多い。

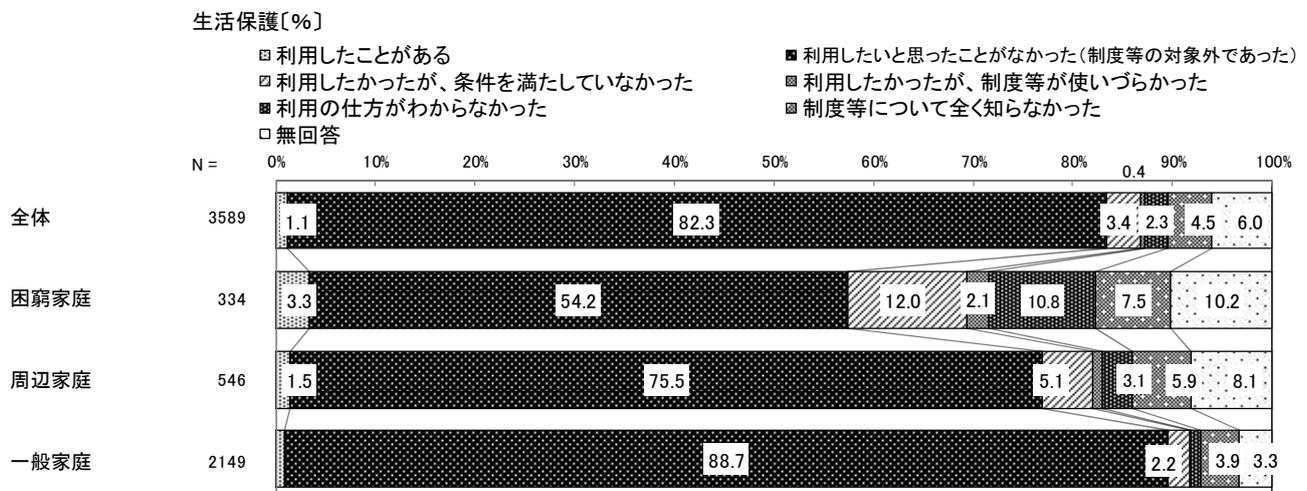
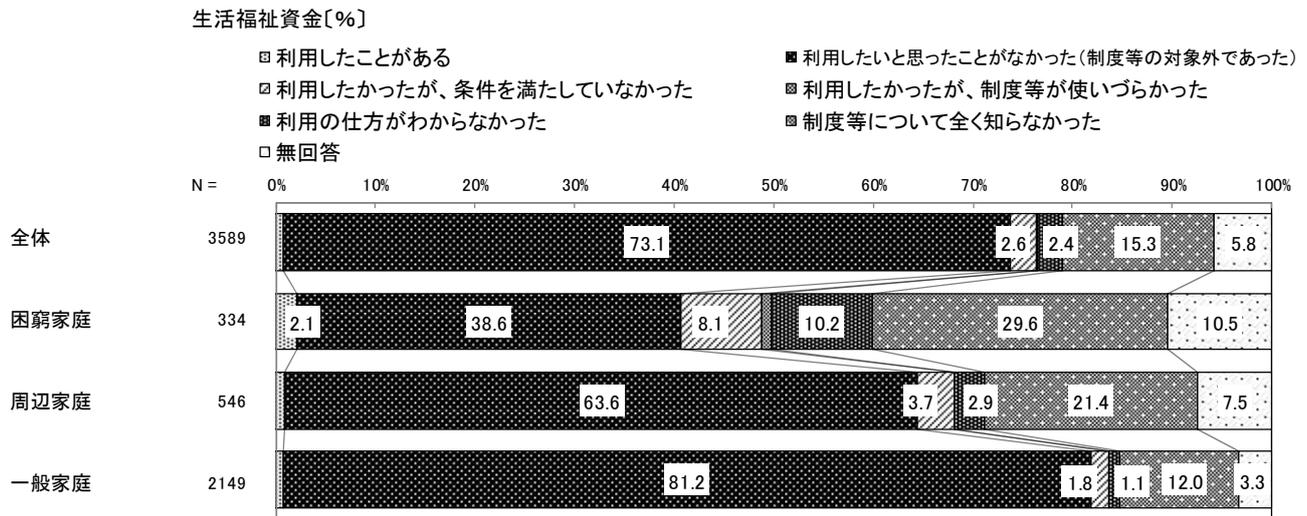


## ②公的支援施策

問 42 以下の支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。

[公的支援施策の利用状況]

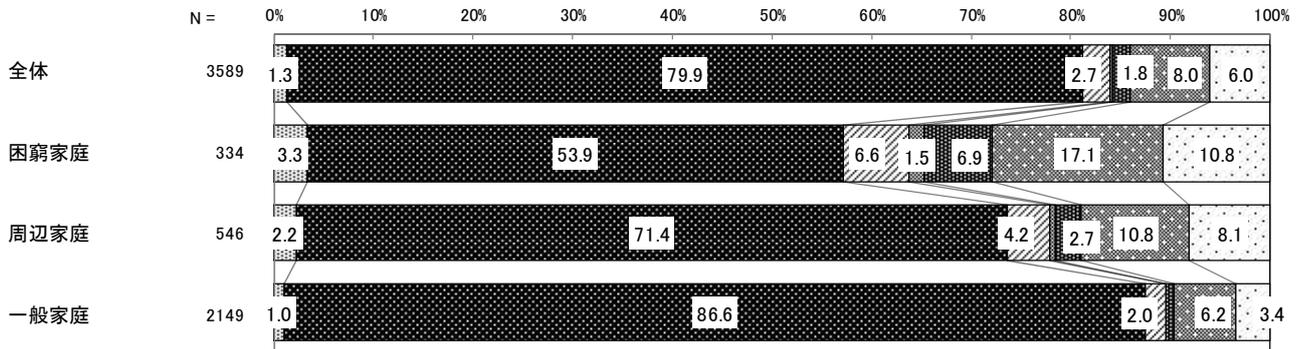
生活福祉資金と生活保護は、全体では「利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)」がそれぞれ 73.1%、82.3%と多いが、困窮家庭では、生活福祉資金は「制度等について全く知らなかった」が 29.6%と多く、生活保護については「利用したかったが、条件を満たしてなかった」、「利用の仕方がわからなかった」などがそれぞれ 10%程度回答されている。



母子及び父子福祉資金は、全体では「利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)」が 79.9%と多く、「利用したことがある」は 1.3%である。困窮家庭では「利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)」が 53.9%と少なく、「制度等について全く知らなかった」が 17.1%と多い。「利用したことがある」は 3.3%である。

母子及び父子福祉資金[%]

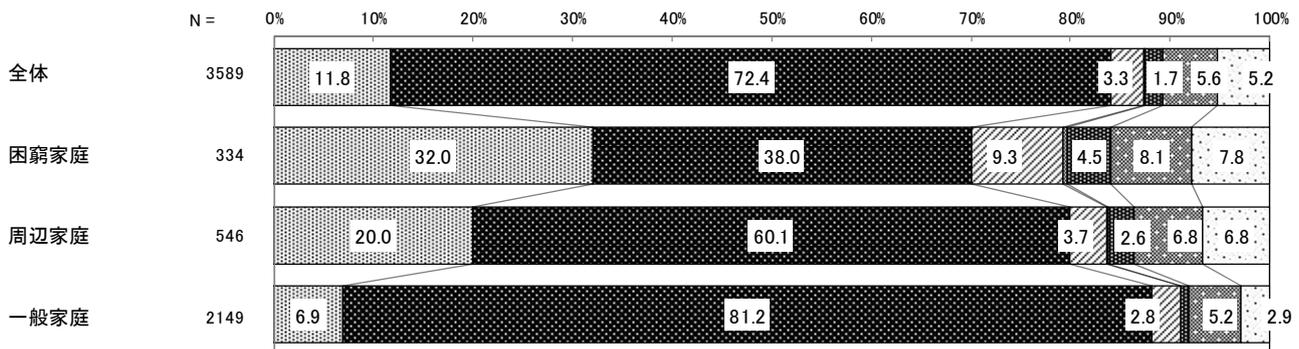
- 利用したことがある
- 利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)
- ▨ 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- ▨ 利用したかったが、制度等が使いづらかった
- ▨ 利用の仕方がわからなかった
- ▨ 制度等について全く知らなかった
- 無回答



児童扶養手当は、全体では「利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)」が 72.4%と多く、「利用したことがある」が 11.8%である。困窮家庭では「利用したことがある」が 32.0%と多い。

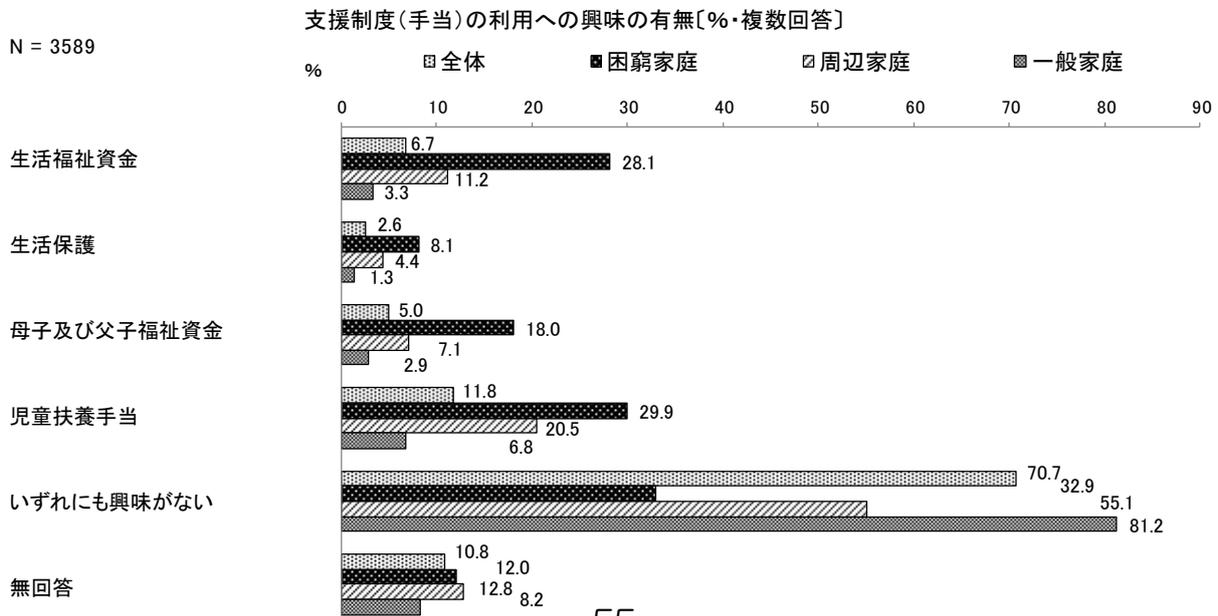
児童扶養手当[%]

- 利用したことがある
- 利用したいと思ったことがなかった(制度等の対象外であった)
- ▨ 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- ▨ 利用したかったが、制度等が使いづらかった
- ▨ 利用の仕方がわからなかった
- ▨ 制度等について全く知らなかった
- 無回答



問 42-1 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。

支援制度(手当)の利用への興味については、全体では、「いずれにも興味がない」が 70.7%と多い。困窮家庭では、「児童扶養手当」が 29.9%、「生活福祉資金」が 28.1%、「母子及び父子福祉資金」が 18.0%と周辺家庭や一般家庭に比べて多い。

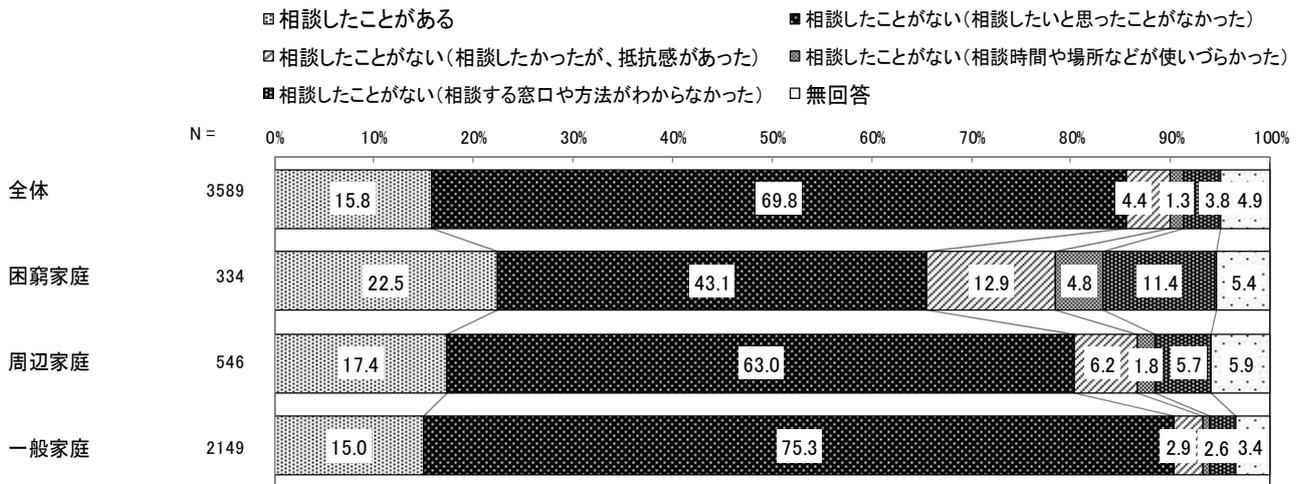


### ③相談窓口の利用状況

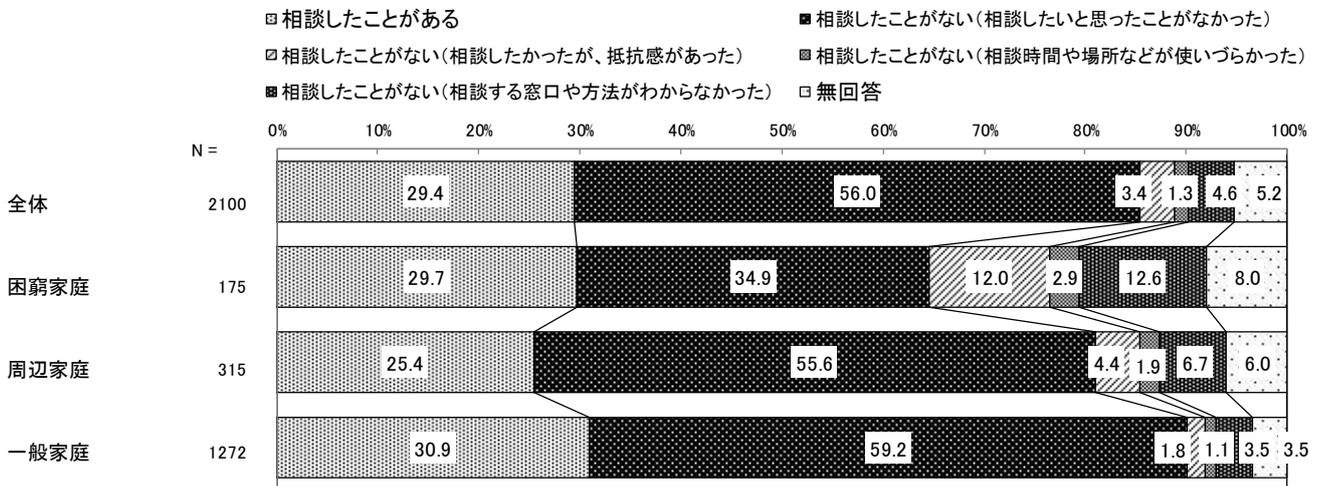
問 43 これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。

市役所・町村役場の窓口については、「相談したことがある」は全体では 15.8%で、困窮家庭で 22.5%とやや多い。子育て支援センター・つどいの広場と学校・保育所・幼稚園の先生などは、「相談したことがある」が全体ではそれぞれ 29.4%、40.0%だが、困窮家庭では「相談したことがない(相談したかったが抵抗感があった)」や「相談したことがない(相談する窓口や方法がわからなかった)」が 10%前後で一般家庭より多い。民生委員・児童委員は、「相談したことがある」が全体では 2.5%だが、困窮家庭は 7.2%とやや多く、「相談したことがない(相談する窓口や方法がわからなかった)」が 15.3%みられる。

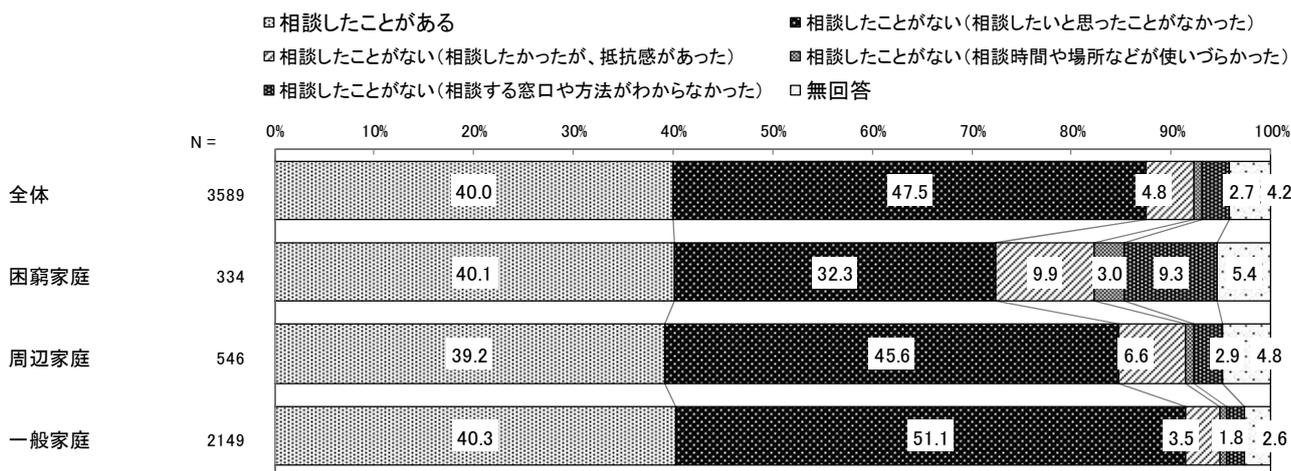
市役所・町村役場の窓口[%]



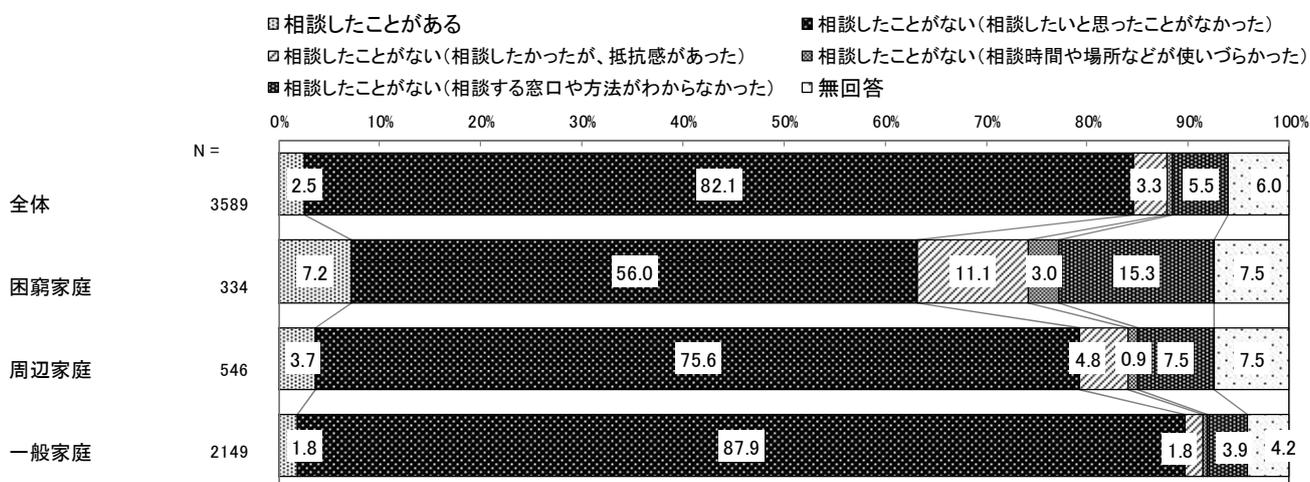
子育て支援センター・つどいの広場[%] (小学1年・5年のみ)



学校・保育所・幼稚園の先生など[%]

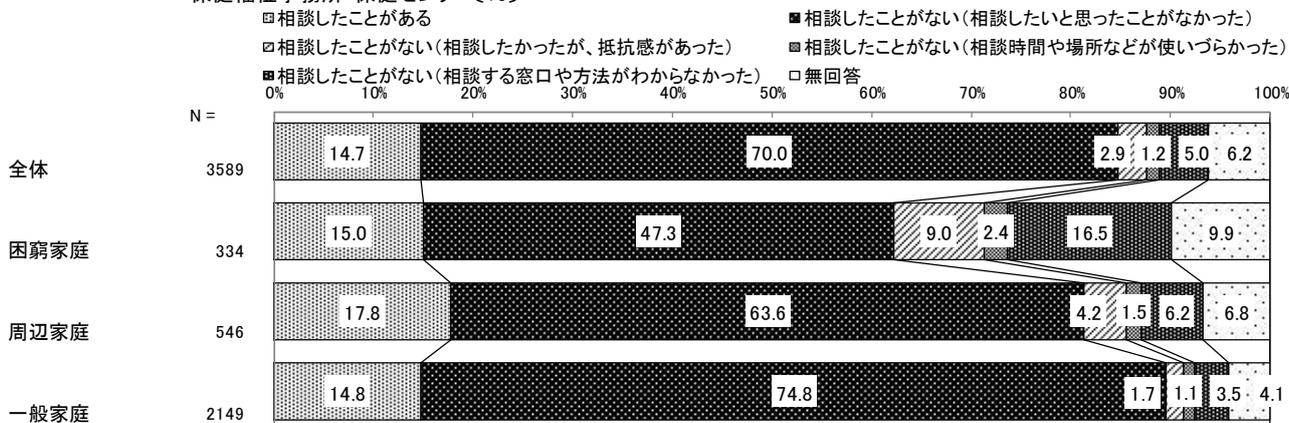


民生委員・児童委員[%]

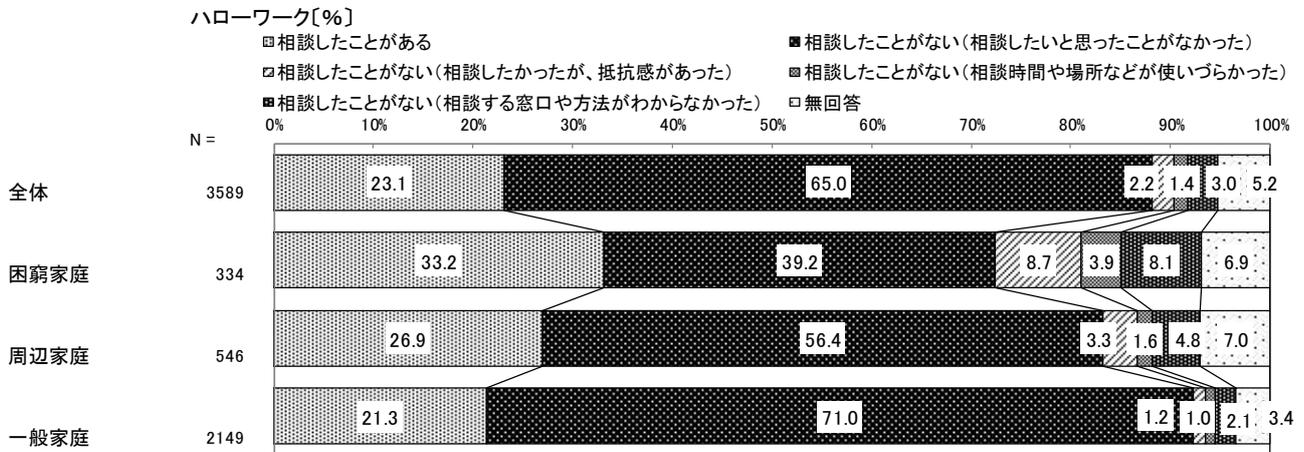


保健福祉事務所・保健センターに「相談したことがある」が 15%前後で、全体では「相談したことがない(相談したいと思ったことがなかった)」が 70.0%と多い。困窮家庭では、「相談したことがない(相談する窓口や方法がわからなかった)」が 16.5%、「相談したことがない(相談したかったが、抵抗感があった)」が 9.0%みられる。

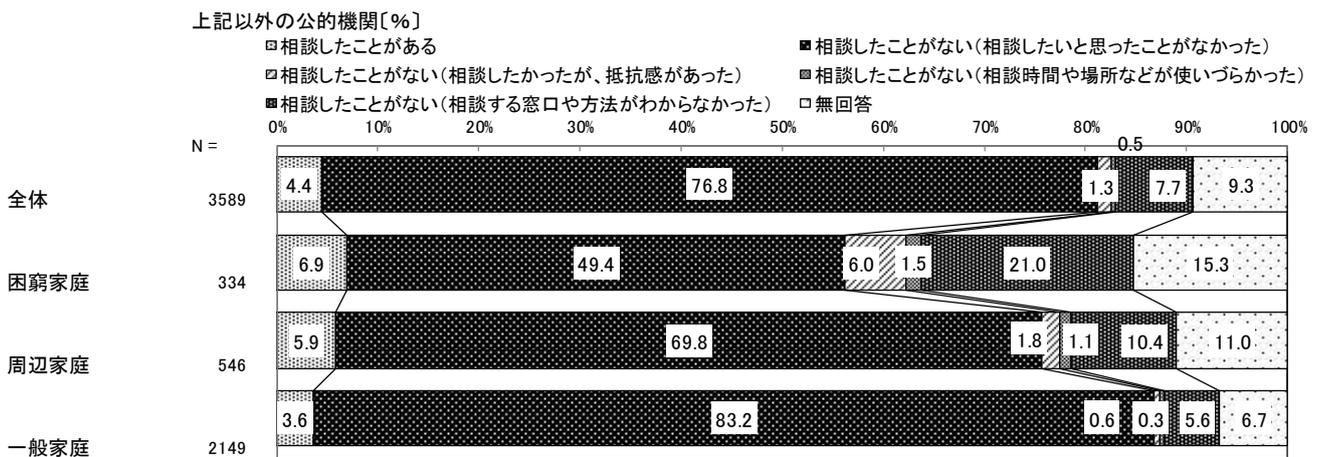
保健福祉事務所・保健センター[%]



ハローワークは、全体では「相談したことがない(相談したいと思ったことがなかった)」が65.0%と多いが、「相談したことがある」が23.1%みられる。困窮家庭では、「相談したことがある」が33.2%とやや多く、「相談したことがない(相談する窓口や方法がわからなかった)」と、「相談したことがない(相談したかったが、抵抗感があった)」がともに8%程度みられる。



前記以外の公的機関は全体で「相談したことがない(相談したいと思ったことがなかった)」が76.8%と多い。生活困難家庭では「相談したことがある」が6~7%程度回答されており、困窮家庭で「相談したことがない(相談する窓口や方法がわからなかった)」が21.0%回答されている。



#### ④支援制度の利用状況

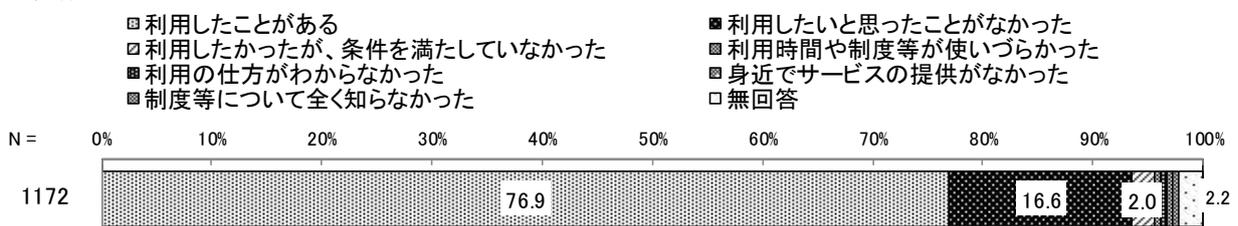
問 44 封筒の宛名のお子さんについて、以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

「利用したことがある」が、小学1年で延長保育が76.9%と多く、子育て支援センター・つどいの広場が61.2%と続いている。小学5年では、児童館や児童クラブが37.0%と多い。

##### 1) 延長保育 (小学1年のみ)

「利用したことがある」が76.9%と最も多くなっている。

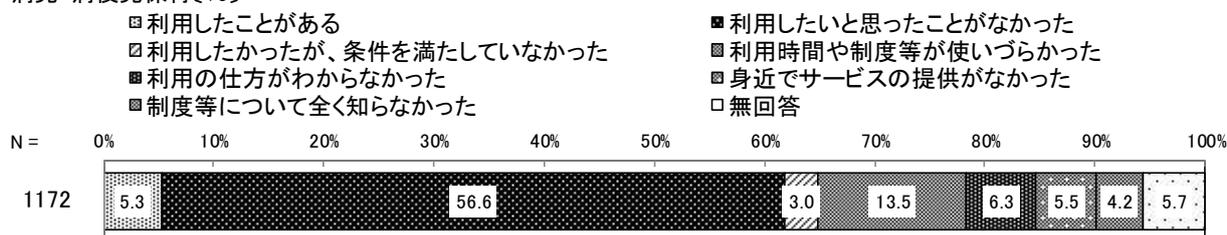
##### 延長保育[%]



## 2) 病児・病後児保育（小学1年のみ）

「利用したいと思ったことがなかった」が56.6%と最も多く、「利用時間や制度等が使いづらかった」が13.5%と続いている。

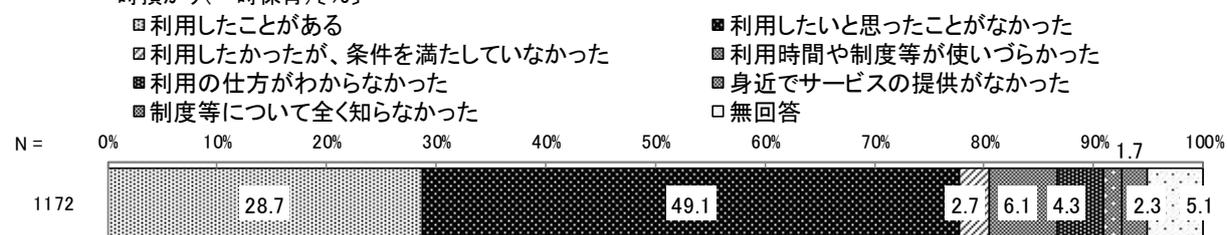
病児・病後児保育[%]



## 3) 一時預かり（一時保育）（小学1年のみ）

「利用したいと思ったことがなかった」が49.1%と最も多くなっている。

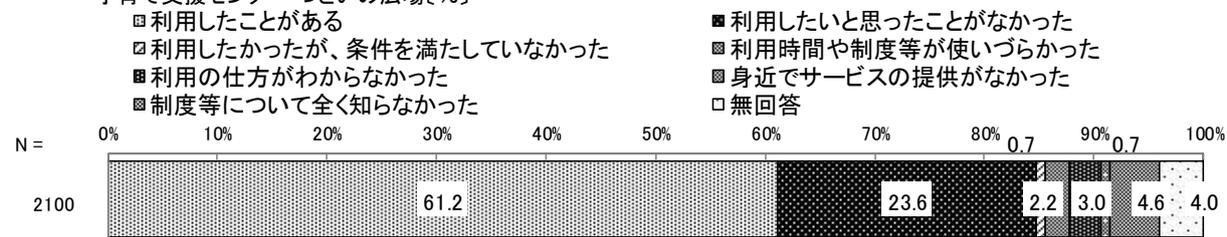
一時預かり（一時保育）[%]



## 4) 子育て支援センター・つどいの広場（小学1年・5年のみ）

「利用したことがある」が61.2%と最も多くなっている。

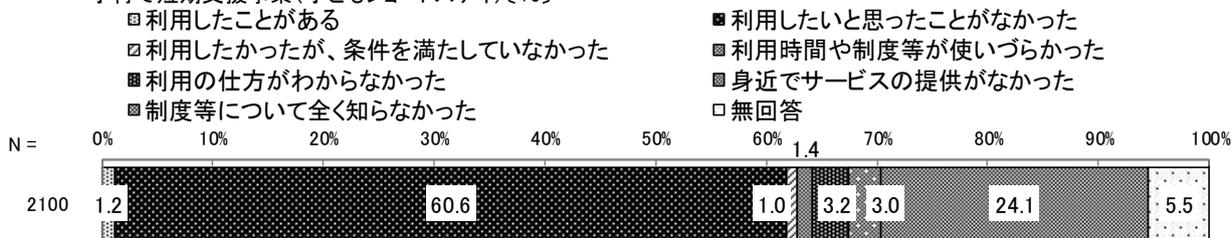
子育て支援センター・つどいの広場[%]



## 5) 子育て短期支援事業（子どもショートステイ）（小学1年・5年）

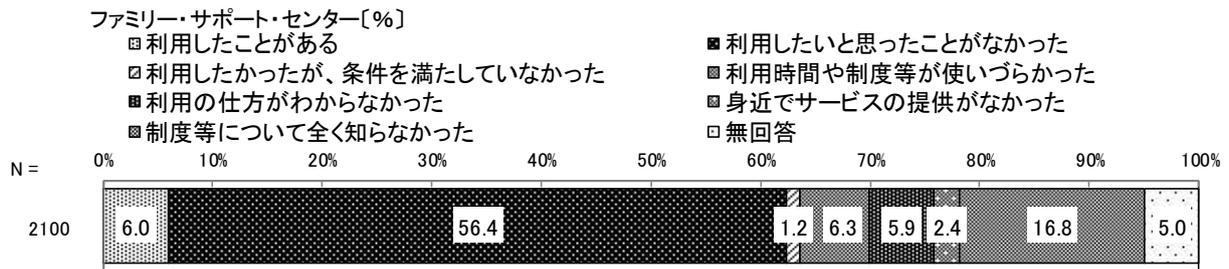
「利用したいと思ったことがなかった」が60.6%と最も多くなっている。

子育て短期支援事業（子どもショートステイ）[%]



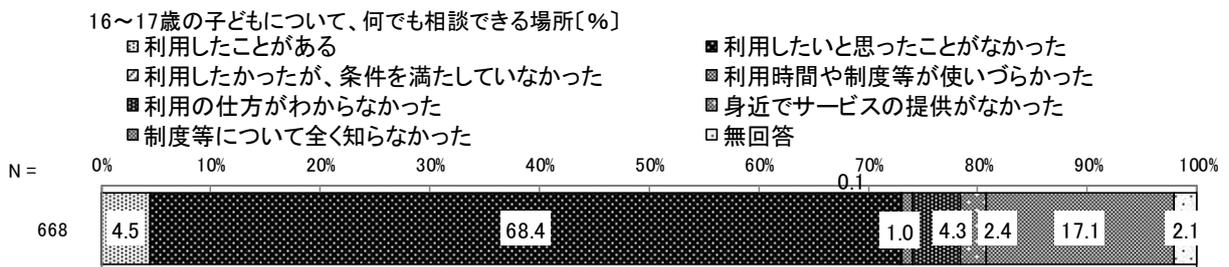
## 6) ファミリー・サポート・センター（小学1年・5年）

「利用したいと思ったことがなかった」が56.4%と最も多くなっている。



## 7) (学校以外で) 16~17歳の子どもについて、何でも相談できる場所（16歳・17歳）

「利用したいと思ったことがなかった」が、16歳・17歳で68.4%と最も多くなっている。

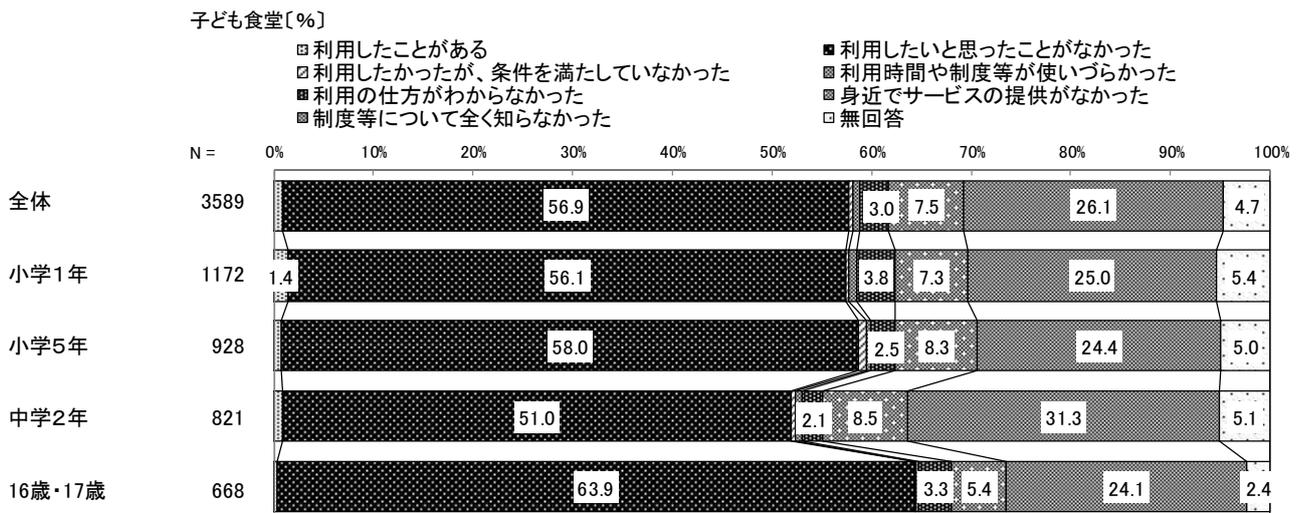


## 8) 子ども食堂

学年別では、「利用したいと思ったことがない」が、どの学年も50%を超えていて、16歳・17歳が63.9%と最も多くなっている。

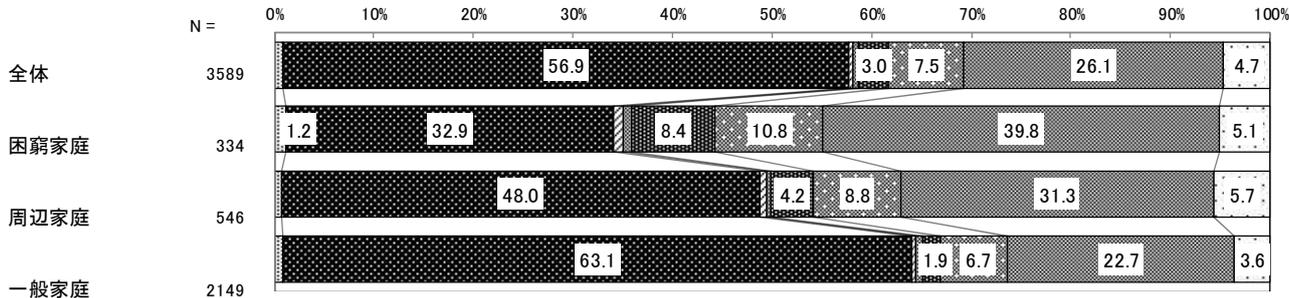
生活困難度別では、「制度等について全く知らなかった」が困窮家庭で39.8%、周辺家庭で31.3%と一般家庭の22.7%に比べて多い。

世帯構成別では、母子家庭：二世家で「利用したいと思ったことがなかった」が39.1%と全体に比べて少なく、「制度等について全く知らなかった」が36.1%と全体に比べて多い。



子ども食堂[%]

- 利用したことがある
- ▨ 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- 利用の仕方がわからなかった
- 制度等について全く知らなかった
- 利用したいと思ったことがなかった
- ▨ 利用時間や制度等が使いづらかった
- ▨ 身近でサービスの提供がなかった
- 無回答



	全体	子ども食堂[%]									
		利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	身近でサービスの提供がなかった	制度等について全く知らなかった	無回答		
全体	3589	32	2041	16	21	107	268	937	167		
		100.0	0.9	56.9	0.4	0.6	3.0	7.5	26.1	4.7	
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	230	5	90	-	2	16	19	83	15	
			100.0	△ 2.2	▼ 39.1	-	0.9	▲ 7.0	8.3	▲ 36.1	6.5
	母子家庭：三世帯	124	1	74	1	1	1	11	27	8	
			100.0	0.8	59.7	0.8	0.8	0.8	8.9	21.8	6.5
	父子家庭：二世帯	94	-	56	1	1	5	9	19	3	
			100.0	-	59.6	1.1	1.1	5.3	9.6	20.2	3.2
	父子家庭：三世帯	32	-	16	-	-	1	1	11	3	
			100.0	-	50.0	-	-	3.1	3.1	34.4	9.4
	二人親家庭：二世帯	2243	20	1295	11	16	66	164	585	86	
		100.0	0.9	57.7	0.5	0.7	2.9	7.3	26.1	3.8	
二人親家庭：三世帯	815	4	480	3	1	16	62	206	43		
		100.0	0.5	58.9	0.4	0.1	2.0	7.6	25.3	5.3	
その他	51	2	30	-	-	2	2	6	9		
		100.0	△ 3.9	58.8	-	-	3.9	3.9	▼ 11.8	▲ 17.6	

### 9) フードバンクによる食料支援

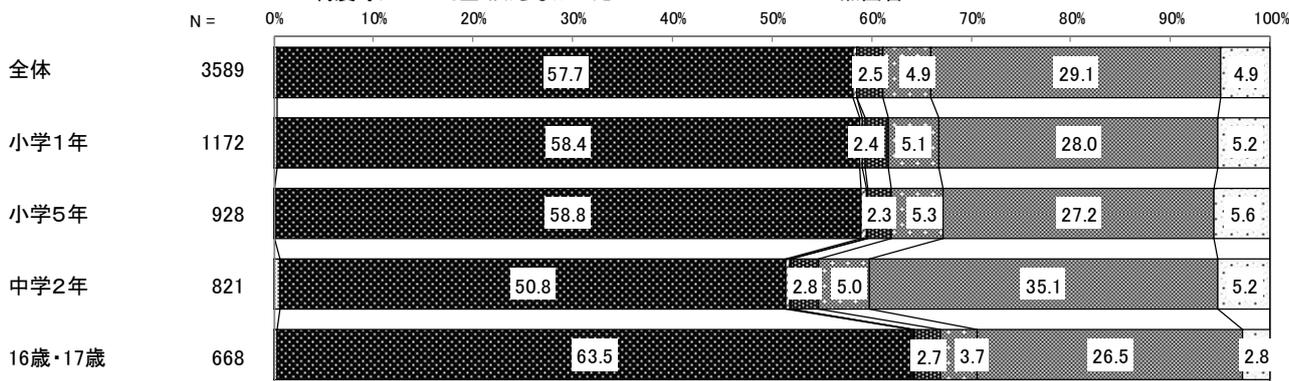
学年別では、「利用したいと思ったことがなかった」が、どの区分も50%を超えていて、16歳・17歳が63.5%と最も多くなっている。

生活困難度別では、「制度等について全く知らなかった」が困窮家庭で43.7%、周辺家庭で35.9%と一般家庭の25.3%に比べて多い。

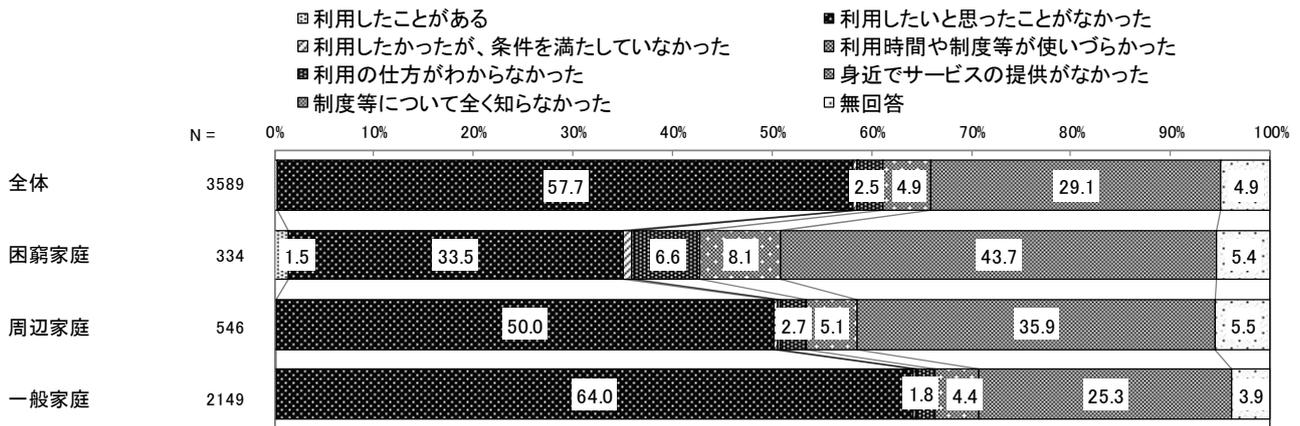
世帯構成別では、母子家庭：二世帯で「利用したいと思ったことがなかった」が40.4%と全体に比べて少なく、「制度等について全く知らなかった」が39.6%と全体に比べて多い。

フードバンクによる食料支援[%]

- 利用したことがある
- ▨ 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- 利用の仕方がわからなかった
- 制度等について全く知らなかった
- 利用したいと思ったことがなかった
- ▨ 利用時間や制度等が使いづらかった
- ▨ 身近でサービスの提供がなかった
- 無回答



フードバンクによる食料支援[%]



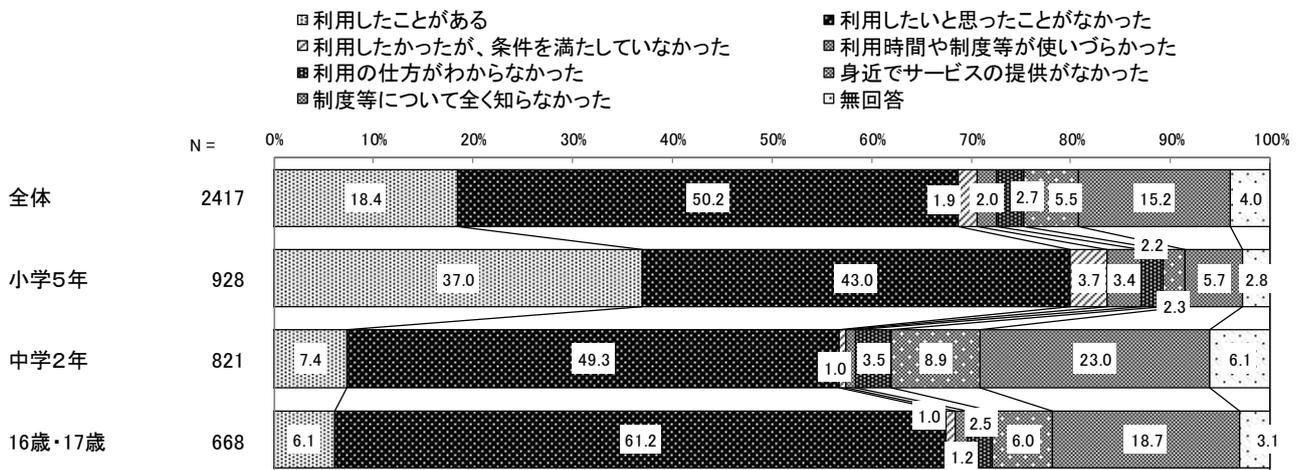
	全体	フードバンクによる食料支援[%]								
		利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	身近でサービスの提供がなかった	制度等について全く知らなかった	無回答	
全体	3589	14	2072	13	5	90	175	1045	175	
		100.0	0.4	57.7	0.4	0.1	2.5	4.9	29.1	4.9
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	230	5	93	-	-	11	16	91	14
		100.0	▲ 2.2	▼ 40.4	-	-	△ 4.8	7.0	▲ 39.6	6.1
	母子家庭：三世帯	124	1	70	1	-	1	5	38	8
		100.0	0.8	56.5	0.8	-	0.8	4.0	30.6	6.5
	父子家庭：二世帯	94	-	54	-	-	3	7	27	3
		100.0	-	57.4	-	-	3.2	7.4	28.7	3.2
	父子家庭：三世帯	32	-	15	-	-	1	1	12	3
		100.0	-	46.9	-	-	3.1	3.1	37.5	9.4
二人親家庭：二世帯	2243	7	1318	11	5	51	108	648	95	
	100.0	0.3	58.8	0.5	0.2	2.3	4.8	28.9	4.2	
二人親家庭：三世帯	815	1	494	1	-	18	37	221	43	
	100.0	0.1	60.6	0.1	-	2.2	4.5	27.1	5.3	
その他	51	-	28	-	-	5	1	8	9	
	100.0	-	54.9	-	-	▲ 9.8	2.0	▼ 15.7	▲ 17.6	

10) 小学校高学年も利用できる児童館や児童クラブ等（小学1年を除く）・中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所

「利用したいと思ったことがなかった」が、全体では50.2%と最も多くなっている。

小学5年では、「利用したいと思ったことがなかった」が43.0%、「利用したことがある」が37.0%と続いている。

児童館や児童クラブ等[%]



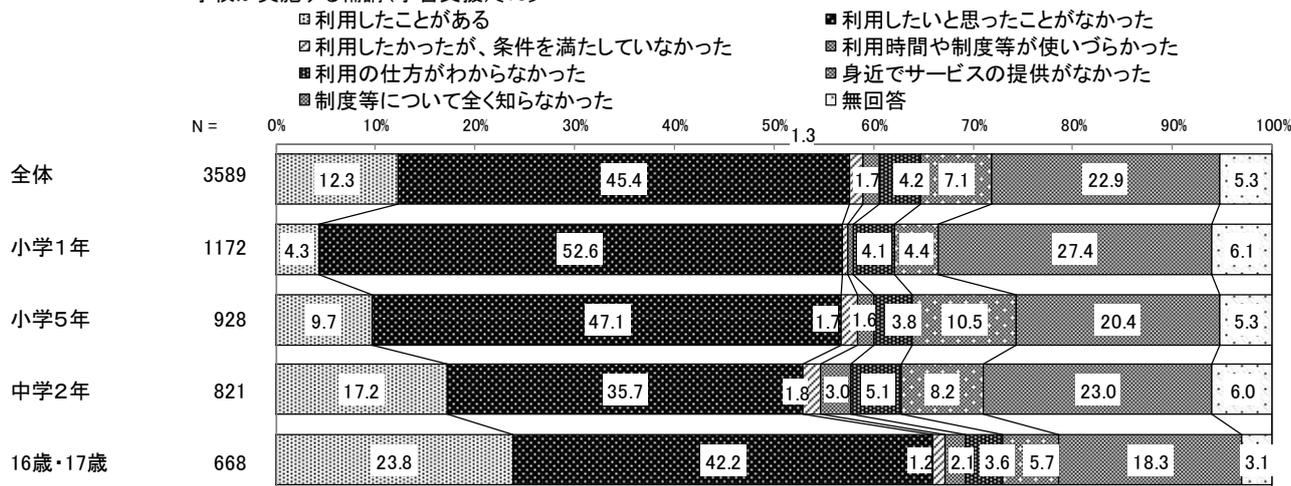
### 11) 学校が実施する補講(学習支援)

学年別では、全体では、「利用したいと思ったことがなかった」が45.4%と最も多く、「制度等について全く知らなかった」が22.9%と続いている。

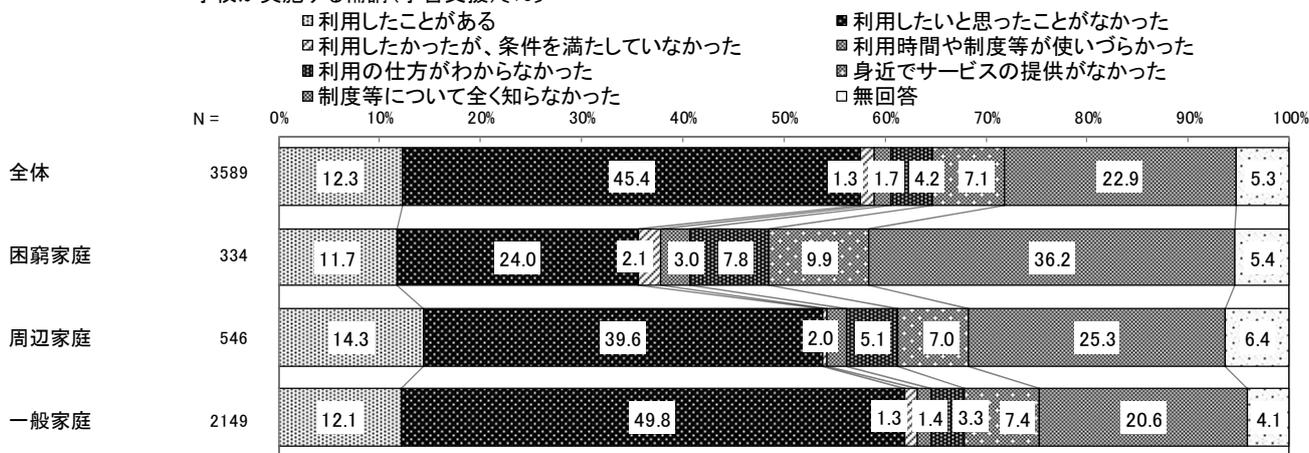
生活困難度別では、「制度等について全く知らなかった」が困窮家庭で36.2%、周辺家庭で25.3%と一般家庭の20.6%に比べて多い。

世帯構成別では、母子家庭：二世帯で「利用したいと思ったことがなかった」が34.8%と全体に比べて少なく、「制度等について全く知らなかった」が30.4%と全体に比べて多い。

学校が実施する補講(学習支援)[%]



学校が実施する補講(学習支援)[%]



		学校が実施する補講(学習支援)[%]								
		全体	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	身近でサービスの提供がなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
全体		3589	440	1629	46	60	149	254	821	190
		100.0	12.3	45.4	1.3	1.7	4.2	7.1	22.9	5.3
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	230	20	80	3	5	16	22	70	14
		100.0	8.7	▼ 34.8	1.3	2.2	△ 7.0	9.6	▲ 30.4	6.1
	母子家庭：三世帯	124	16	49	5	4	2	8	30	10
		100.0	12.9	39.5	▲ 4.0	3.2	1.6	6.5	24.2	8.1
	父子家庭：二世帯	94	14	43	2	4	5	7	16	3
		100.0	14.9	45.7	2.1	4.3	5.3	7.4	17.0	3.2
	父子家庭：三世帯	32	3	13	-	2	3	-	7	4
		100.0	9.4	40.6	-	△ 6.3	9.4	-	21.9	12.5
二人親家庭：二世帯	2243	264	1038	30	32	93	150	531	105	
	100.0	11.8	46.3	1.3	1.4	4.1	6.7	23.7	4.7	
二人親家庭：三世帯	815	118	386	4	13	26	65	158	45	
	100.0	14.5	47.4	▽ 0.5	1.6	3.2	8.0	▽ 19.4	5.5	
その他	51	5	20	2	-	4	2	9	9	
	100.0	9.8	39.2	3.9	-	7.8	3.9	17.6	▲ 17.6	

## 12) 学校以外が実施する学習支援

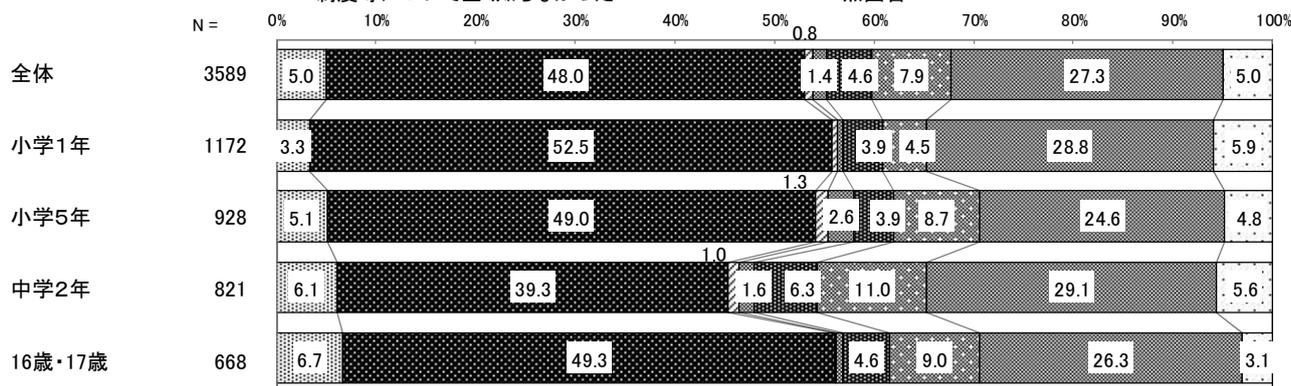
全体では、「利用したいと思ったことがなかった」が48.0%と最も多くなっていて、「制度等について全く知らなかった」が27.3%と続いている。

生活困難度別では、「制度等について全く知らなかった」が困窮家庭で42.5%、周辺家庭で31.1%と一般家庭の24.5%に比べて多い。

世帯構成別では、母子家庭：二世帯で「利用したいと思ったことがなかった」が36.1%と全体に比べて少なく、「制度等について全く知らなかった」が35.7%と全体に比べて多い。

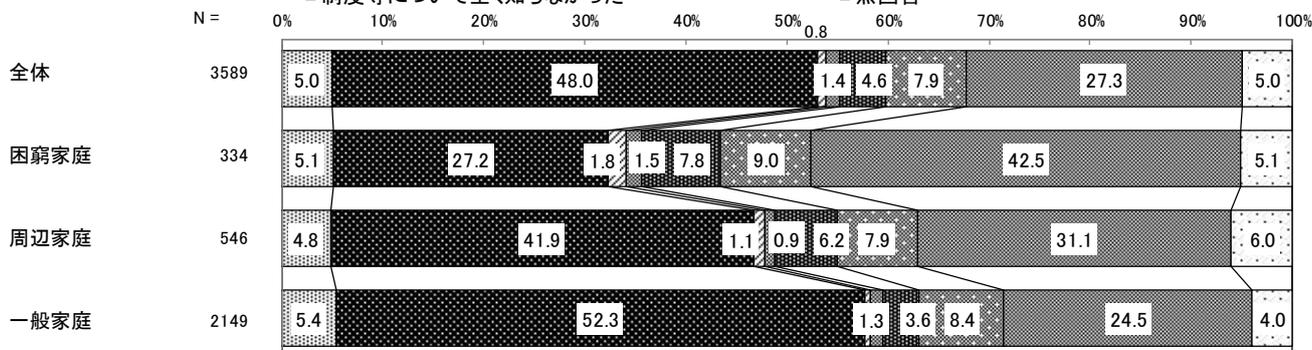
学校以外が実施する学習支援[%]

- 利用したことがある
- 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- 利用したいと思ったことがなかった
- 利用時間や制度等が使いづらかった
- 利用の仕方がわからなかった
- 身近でサービスの提供がなかった
- 無回答



学校以外が実施する学習支援[%]

- 利用したことがある
- 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- 利用したいと思ったことがなかった
- 利用時間や制度等が使いづらかった
- 利用の仕方がわからなかった
- 身近でサービスの提供がなかった
- 無回答



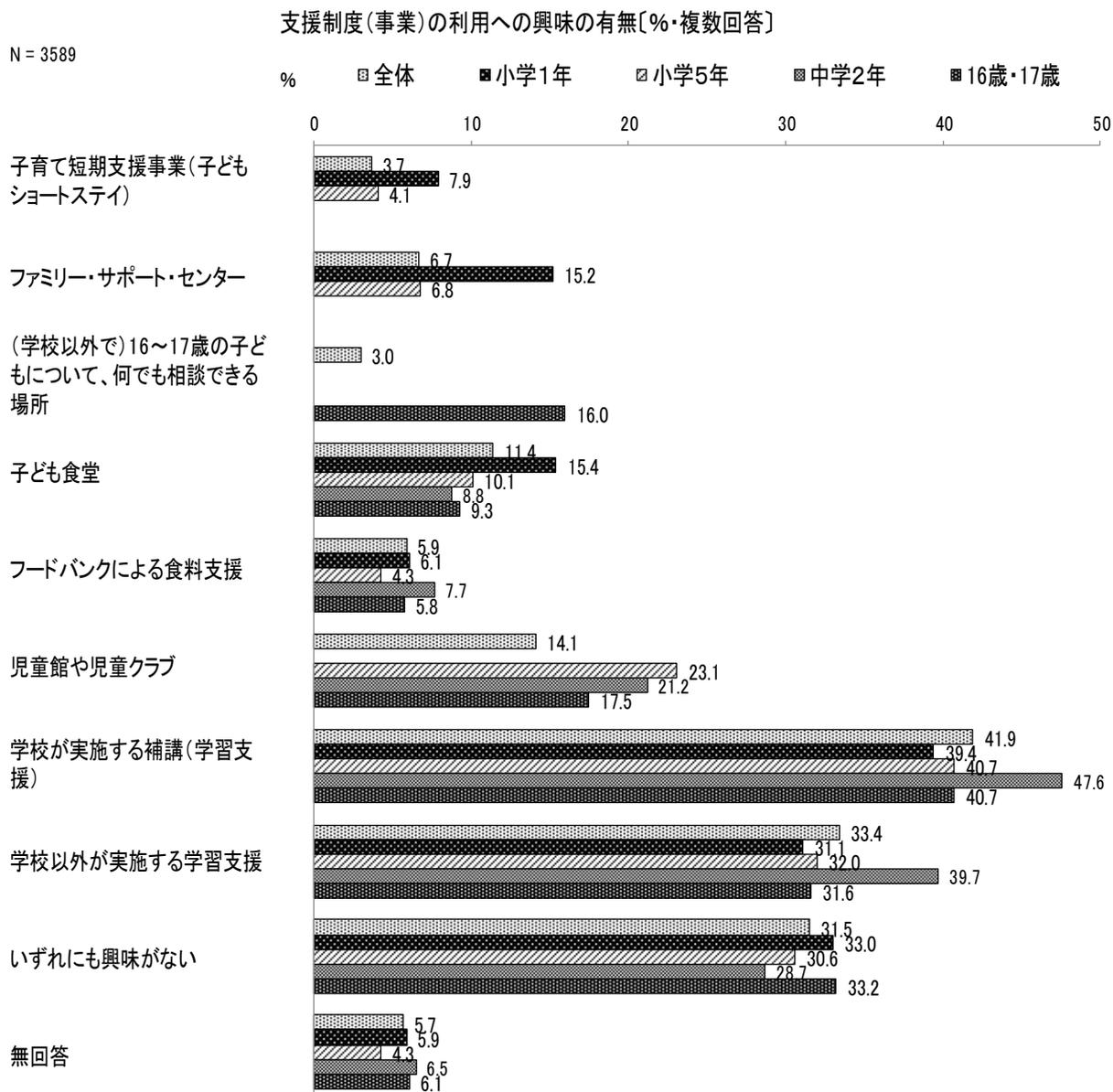
		学校以外が実施する学習支援[%]								
		全体	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	身近でサービスの提供がなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
全体		3589	181	1722	27	49	165	284	980	181
		100.0	5.0	48.0	0.8	1.4	4.6	7.9	27.3	5.0
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	230	12	83	4	5	14	19	82	11
		100.0	5.2	▼ 36.1	1.7	2.2	6.1	8.3	▲ 35.7	4.8
	母子家庭：三世帯	124	8	51	2	1	5	7	41	9
		100.0	6.5	41.1	1.6	0.8	4.0	5.6	33.1	7.3
	父子家庭：二世帯	94	4	44	-	4	6	12	21	3
		100.0	4.3	46.8	-	△ 4.3	6.4	12.8	22.3	3.2
	父子家庭：三世帯	32	2	11	-	-	3	1	11	4
		100.0	6.3	34.4	-	-	9.4	3.1	34.4	12.5
二人親家庭：二世帯	2243	108	1093	19	31	100	169	624	99	
	100.0	4.8	48.7	0.8	1.4	4.5	7.5	27.8	4.4	
二人親家庭：三世帯	815	41	419	2	8	33	72	193	47	
	100.0	5.0	△ 51.4	0.2	1.0	4.0	8.8	▼ 23.7	5.8	
その他	51	6	21	-	-	4	4	8	8	
	100.0	△ 11.8	41.2	-	-	7.8	7.8	15.7	▲ 15.7	

問 45 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。

全体では、「学校が実施する補講（学習支援）」が 41.9%と最も多く、「学校以外が実施する学習支援」が 33.4%、「いずれにも興味がない」が 31.5%と続いている。

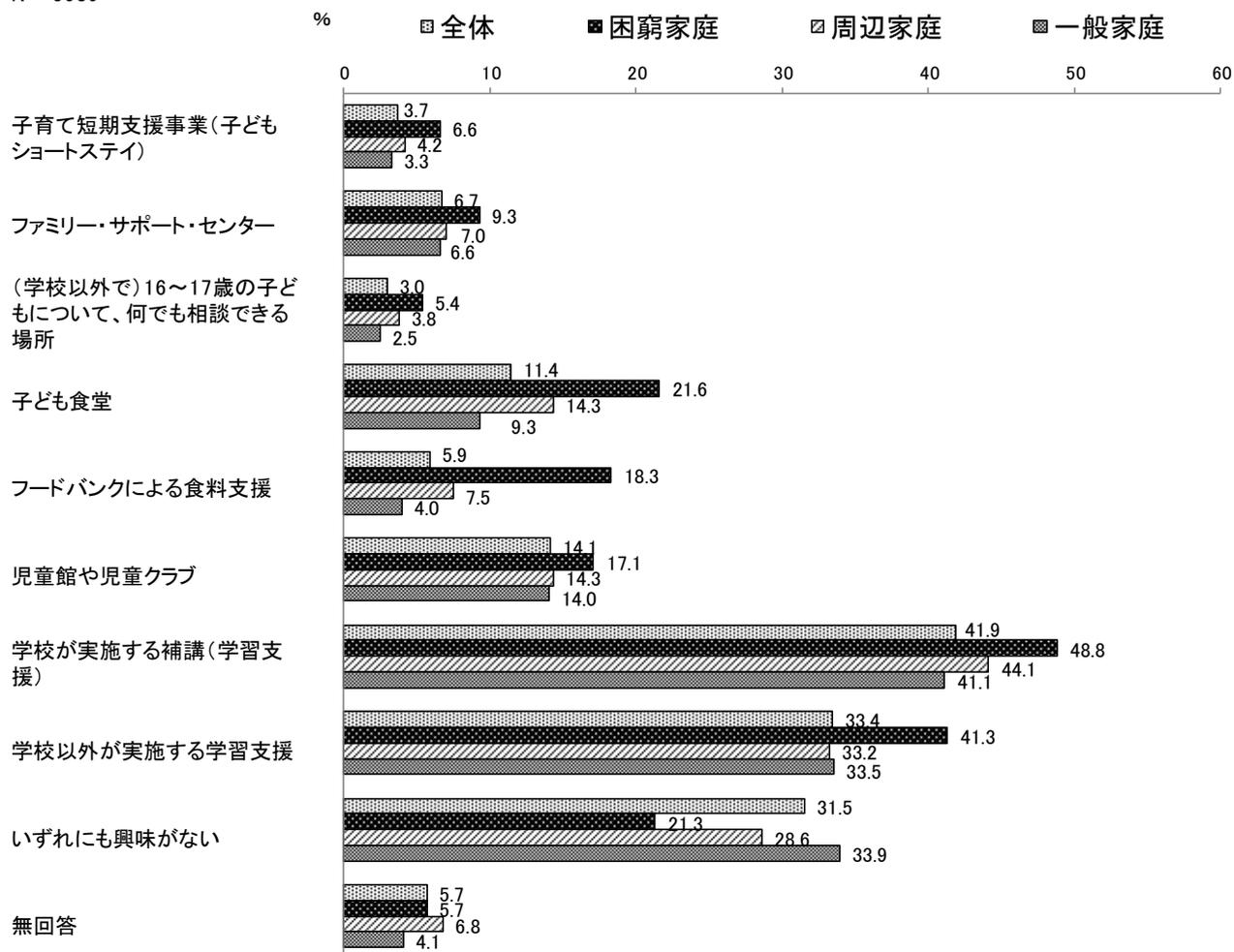
学年別では、中学2年で「学校が実施する補講（学習支援）」が 47.6%、「学校以外が実施する学習支援」が 39.7%と他の学年に比べて多い。

生活困難度別では、困窮家庭で「学校が実施する補講（学習支援）」が 48.8%、「学校以外が実施する学習支援」が 41.3%と一般家庭に比べて多い一方、「いずれにも興味がない」が 21.3%と一般家庭の 33.9%に比べて少ない。



支援制度(事業)の利用への興味の有無[%・複数回答]

N = 3589



### ⑤支援サービスの利用希望

[希望する子育て支援サービス]

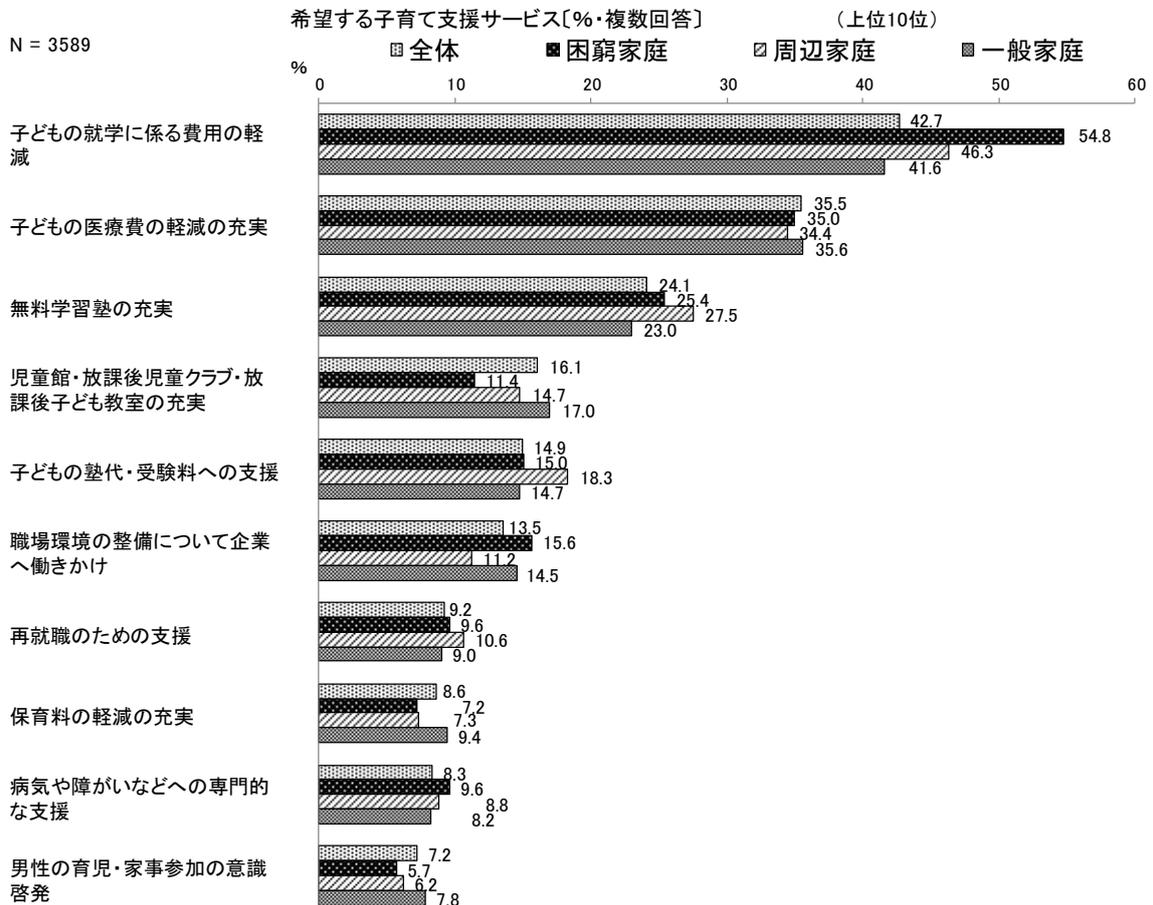
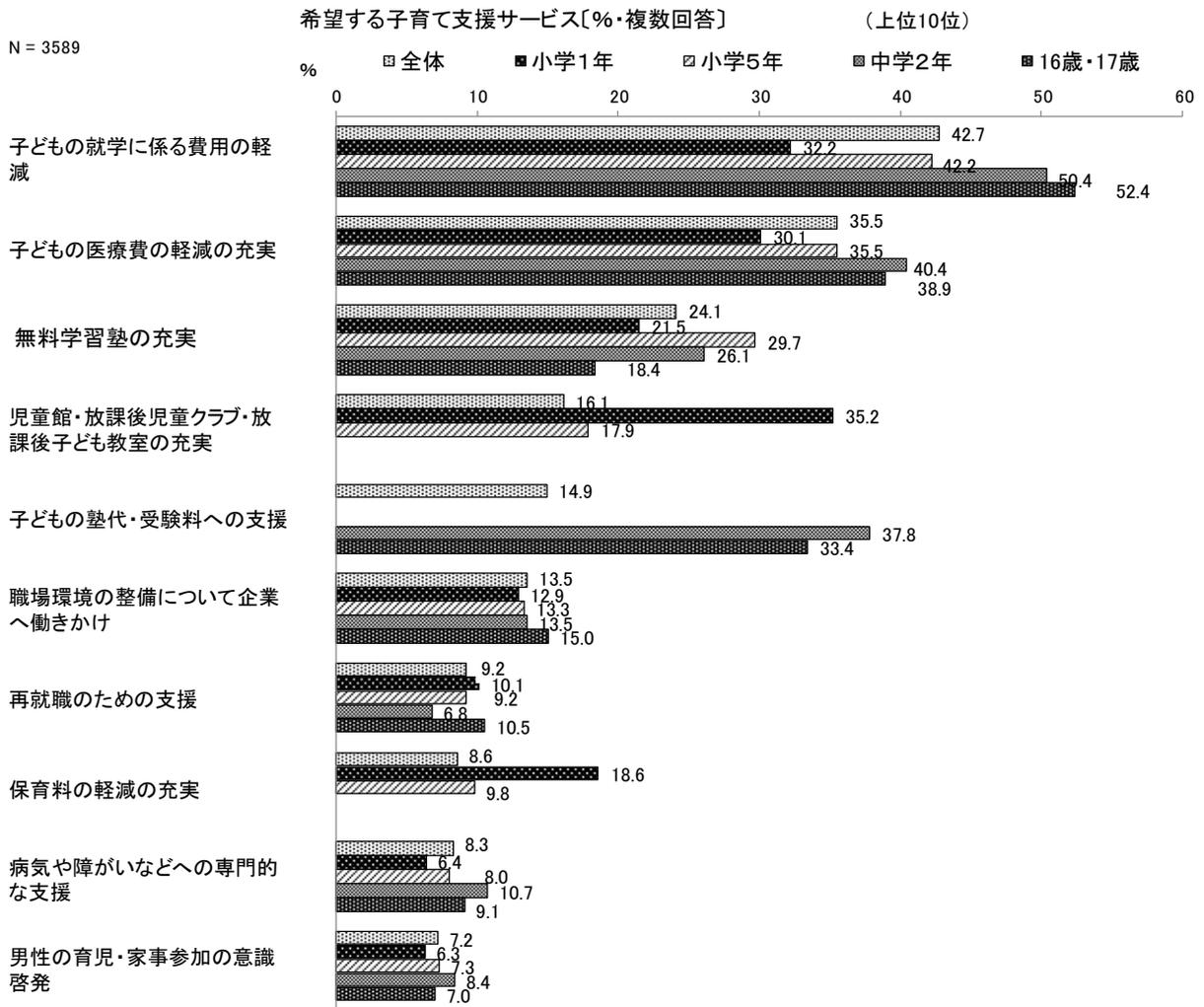
問 46 今後、充実を希望する子育て支援サービスは何ですか。

全体では、「子どもの就学に係る費用の軽減」が42.7%と最も多く、「子どもの医療費の軽減の充実」が35.5%、「無料学習塾の充実」が24.1%と続いている。

学年別では、小学1年で「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」(35.2%)、小学5年で「無料学習塾の充実」(29.7%)、中学2年で「子どもの医療費の軽減の充実」(40.4%)と「子どもの塾代・受験料への支援」(37.8%)、16歳・17歳で「子どもの就学に係る費用の軽減」(52.4%)がそれぞれ他の学年より多くなっている。

生活困難度別では、困窮家庭で「子どもの就学に係る費用の軽減」が54.8%とどの区分よりも多くなっている。

世帯構成別では、母子家庭：二世帯で「無料学習塾の充実」が35.7%と全体に比べて多い。



	全体	希望する子育て支援サービス[%・複数回答]														
		未満児(0~2歳児)保育の充実	延長保育の充実	休日保育の充実	病児・病後児保育の充実	乳幼児健診の充実	ファミリー・サポート・センターの充実	子育て世帯への訪問事業の充実	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実	職場環境の整備について企業へ働きかけ	育児休業後の職場復帰の支援	再就職のための支援	悩みを相談できる支援体制の充実	同じ悩みを持つ人の交流の場の創設		
全体	3589	205	221	211	234	35	86	28	578	485	171	329	168	111		
	100.0	5.7	6.2	5.9	6.5	1.0	2.4	0.8	16.1	13.5	4.8	9.2	4.7	3.1		
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	230	7	8	11	12	-	7	-	28	23	10	21	15	6	
		100.0	3.0	3.5	4.8	5.2	-	3.0	-	12.2	10.0	4.3	9.1	6.5	2.6	
	母子家庭：三世帯	124	3	7	5	3	-	2	1	16	18	3	16	7	3	
		100.0	2.4	5.6	4.0	2.4	-	1.6	0.8	12.9	14.5	2.4	12.9	5.6	2.4	
	父子家庭：二世帯	94	6	3	8	7	-	1	2	14	16	8	13	8	2	
		100.0	6.4	3.2	8.5	7.4	-	1.1	2.1	14.9	17.0	8.5	13.8	8.5	2.1	
	父子家庭：三世帯	32	1	2	2	2	-	2	1	4	3	1	-	2	3	
		100.0	3.1	6.3	6.3	6.3	-	6.3	3.1	12.5	9.4	3.1	-	6.3	△ 9.4	
	二人親家庭：二世帯	2243	146	138	134	174	30	63	18	410	315	106	197	84	67	
	100.0	6.5	6.2	6.0	△ 7.8	1.3	2.8	0.8	▲ 18.3	14.0	4.7	8.8	▽ 3.7	3.0		
二人親家庭：三世帯	815	41	59	46	33	5	10	6	101	106	42	76	46	26		
	100.0	5.0	7.2	5.6	▼ 4.0	0.6	▽ 1.2	0.7	▼ 12.4	13.0	5.2	9.3	5.6	3.2		
その他	51	1	4	5	3	-	1	-	5	4	1	6	6	4		
	100.0	2.0	7.8	9.8	5.9	-	2.0	-	9.8	7.8	2.0	11.8	△ 11.8	7.8		
	全体	希望する子育て支援サービス[%・複数回答]														
		地域の人や民間支援団体による支援	病気や障がいなどへの専門的な支援	男性の育児・家事参加の意識啓発	子育て支援情報の充実	保育料の軽減の充実	子どもの医療費の軽減の充実	子どもの就学に係る費用の軽減	子どもの塾代・受験料への支援	子ども食堂の充実	無料学習塾の充実	一時的に必要な資金の貸与	公営住宅の整備など住宅確保のための支援	その他	無回答	
全体	3589	53	298	258	229	309	1274	1533	533	41	865	163	50	89	217	
	100.0	1.5	8.3	7.2	6.4	8.6	35.5	42.7	14.9	1.1	24.1	4.5	1.4	2.5	6.0	
世帯タイプ別	母子家庭：二世帯	4	13	3	11	10	71	110	48	3	82	17	22	9	15	
		100.0	1.7	5.7	▼ 1.3	4.8	▼ 4.3	30.9	47.8	△ 20.9	1.3	▲ 35.7	△ 7.4	▲ 9.6	3.9	6.5
	母子家庭：三世帯	4	10	7	11	7	48	62	19	1	35	5	4	3	6	
		100.0	3.2	8.1	5.6	8.9	5.6	38.7	50.0	15.3	0.8	28.2	4.0	3.2	2.4	4.8
	父子家庭：二世帯	-	6	11	10	8	26	33	11	1	15	6	-	2	7	
		100.0	-	6.4	11.7	10.6	8.5	27.7	35.1	11.7	1.1	16.0	6.4	-	2.1	7.4
	父子家庭：三世帯	-	3	3	4	4	12	10	5	-	9	1	-	-	4	
		100.0	-	9.4	9.4	12.5	12.5	37.5	31.3	15.6	-	28.1	3.1	-	-	12.5
	二人親家庭：二世帯	27	175	178	137	221	816	941	317	21	509	89	16	57	130	
	100.0	1.2	7.8	7.9	6.1	△ 9.9	36.4	42.0	14.1	0.9	22.7	4.0	▼ 0.7	2.5	5.8	
二人親家庭：三世帯	17	86	54	55	57	292	358	124	14	200	42	6	17	48		
	100.0	2.1	△ 10.6	6.6	6.7	7.0	35.8	43.9	15.2	1.7	24.5	5.2	0.7	2.1	5.9	
その他	1	5	2	1	2	9	19	9	1	15	3	2	1	7		
	100.0	2.0	9.8	3.9	2.0	3.9	▼ 17.6	37.3	17.6	2.0	29.4	5.9	3.9	2.0	△ 13.7	

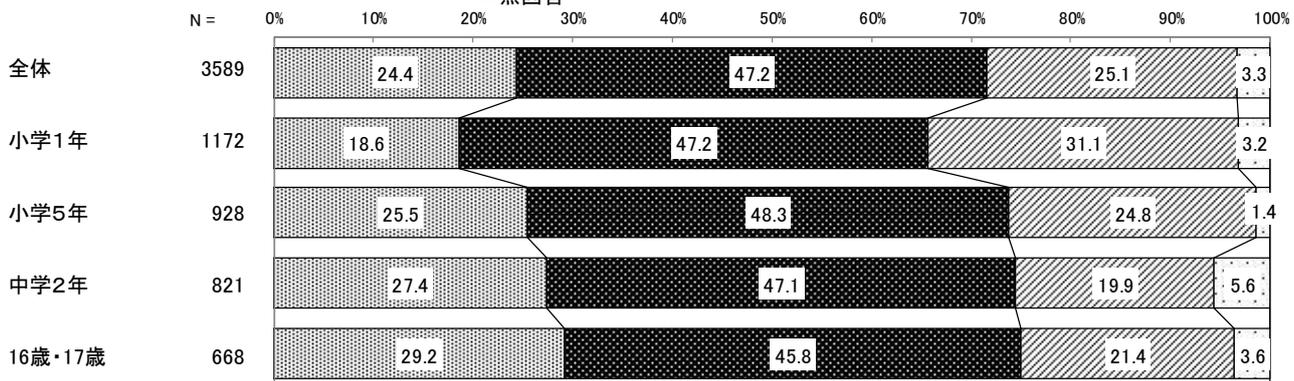
問 47 長野県では、昨年7月に「子どもを性被害から守るための条例」を制定しましたが、ご存知ですか。

全体では、「条例が制定されたことは知っているが、条例の中身は知らない」が47.2%と多く、「条例が制定されたことを知らない」、「条例が制定されたこと、また、条例の中身について知っている」がともに25%前後で続いている。

小学1年の保護者では、「条例が制定されたこと、また、条例の中身について知っている」は18.6%とやや少なく、子どもの学年が上がるにつれて多くなり、16歳・17歳で29.2%となっている。

「子どもを性被害から守るための条例」の認知[%]

- 条例が制定されたこと、また、条例の中身について知っている
- 条例が制定されたことは知っているが、条例の中身は知らない
- ▨ 条例が制定されたことを知らない
- 無回答



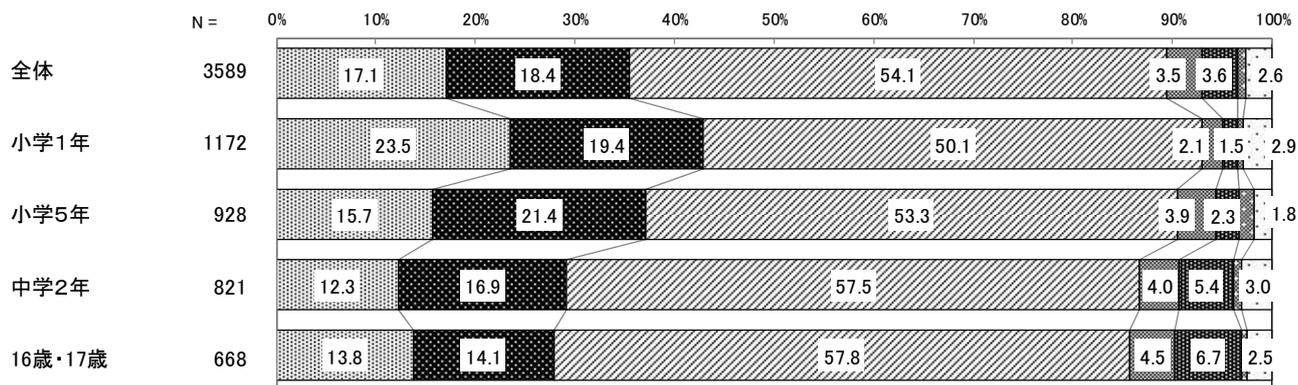
問 48 長野県では、性被害を防ぐために、性教育を充実することが必要と考えていますが、家庭における性教育の状況について、お答えください。

全体では、「具体的にどのように行ったらよいかわからない」が 54.1%と多い。

小学1年の保護者で「子どもの年齢に応じて、家庭内で必要な性教育を行うつもりである」が 23.5%とやや多い。

家庭における性教育についての考え[%]

子どもの年齢に応じて、家庭内で必要な性教育を行うつもりである     子どもの年齢(発達)に応じた教育ができるか自信がない  
 具体的にどのように行ったらよいかわからない     性教育は学校で行うので、家庭では必要ない  
 子どもが自然に必要な知識を身につけるので、家庭では必要ない     その他  
 無回答



## ⑥就学援助費・奨学給付費などの支給

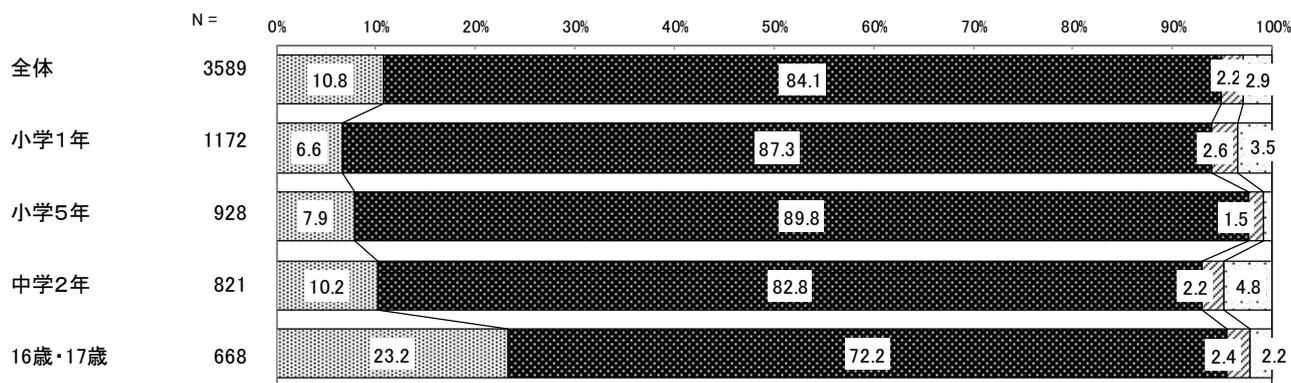
問 49 お子さんは、「就学援助費」・「高校生等奨学給付金」を利用していますか。

全体では、「受け取っている」が 10.8%となっている。学年別では、「受け取っている」は小学1年、小学5年は10%未満である。16歳・17歳は23.2%となっているが、県が実際に把握している奨学給付金の受給率は10%程度であり、回答者のうち41.3%が世帯年収400万円以上を占めていることから、利用している給付金を取り違えている人が含まれていると考えられる。

困窮家庭では「受け取っている」が 33.8%と周辺家庭、一般家庭より多い。困窮家庭を学年別で見ると、「受け取っている」は小学1年で30.2%、小学5年で27.8%、中学2年で34.1%、16歳・17歳で45.6%と16・17歳の受給率が高い。

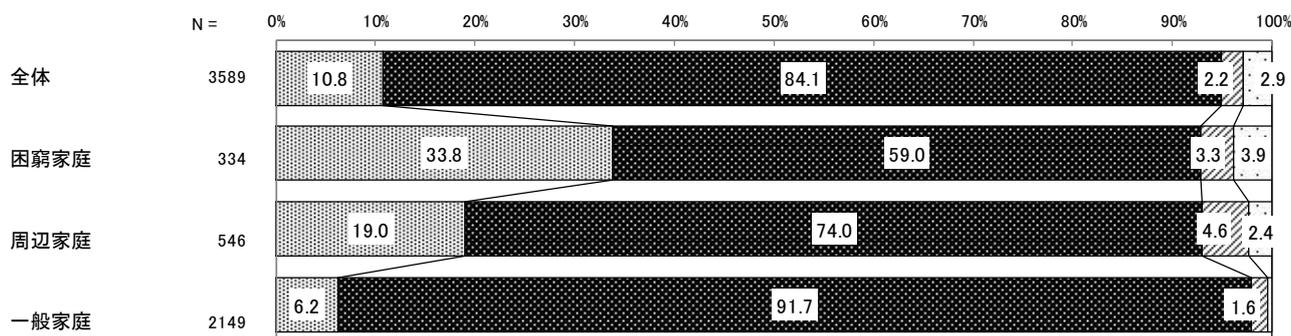
就学援助費・高校生等奨学給付金を受け取っているか[%]

受け取っている     受け取っていない     わからない     無回答



就学援助費・高校生等奨学給付金を受け取っているか[%]

■ 受け取っている ■ 受け取っていない □ わからない □ 無回答



		全体	就学援助費・高校生等奨学給付金を受け取っているか[%]			
			受け取っている	受け取っていない	わからない	無回答
全体		3589	389	3018	79	103
		100.0	10.8	84.1	2.2	2.9
生活 困難 度別 × 調査 票別	困窮家庭	334	113	197	11	13
		100.0	▲ 33.8	▼ 59.0	3.3	3.9
	困窮家庭:小学1年	96	29	56	4	7
		100.0	▲ 30.2	▼ 58.3	4.2	▲ 7.3
	困窮家庭:小学5年	79	22	55	2	-
		100.0	▲ 27.8	▼ 69.6	2.5	-
	困窮家庭:中学2年	91	31	53	2	5
		100.0	▲ 34.1	▼ 58.2	2.2	5.5
	困窮家庭:16歳・17歳	68	31	33	3	1
		100.0	▲ 45.6	▼ 48.5	4.4	1.5
	周辺家庭	546	104	404	25	13
		100.0	▲ 19.0	▼ 74.0	▲ 4.6	2.4
	周辺家庭:小学1年	174	17	144	10	3
		100.0	9.8	82.8	▲ 5.7	1.7
	周辺家庭:小学5年	141	27	106	6	2
		100.0	▲ 19.1	▼ 75.2	4.3	1.4
周辺家庭:中学2年	124	23	94	2	5	
	100.0	▲ 18.5	▼ 75.8	1.6	4.0	
周辺家庭:16歳・17歳	107	37	60	7	3	
	100.0	▲ 34.6	▼ 56.1	▲ 6.5	2.8	
一般家庭	2149	134	1970	35	10	
	100.0	▼ 6.2	▲ 91.7	1.6	▼ 0.5	
一般家庭:小学1年	694	21	658	13	2	
	100.0	▼ 3.0	▲ 94.8	1.9	▼ 0.3	
一般家庭:小学5年	578	21	549	5	3	
	100.0	▼ 3.6	▲ 95.0	▼ 0.9	▼ 0.5	
一般家庭:中学2年	471	19	439	12	1	
	100.0	▼ 4.0	▲ 93.2	2.5	▼ 0.2	
一般家庭:16歳・17歳	406	73	324	5	4	
	100.0	▲ 18.0	▼ 79.8	1.2	▼ 1.0	

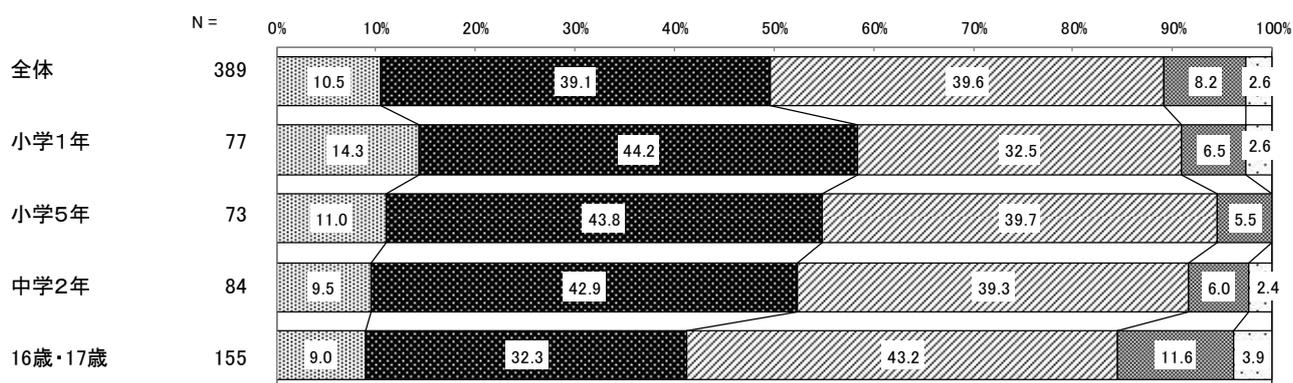
問 50 「1 利用している」と回答した方にお伺いします。現在の就学援助費・高校生等奨学給付金で必要な費用を賄うことができますか。

全体では、『賄える』(「十分に賄える」「だいたい賄える」の合計)は 49.6%、『賄えない』(「十分には賄えない」「ほとんど賄えない」の合計)は 47.8%と同程度となっている。学年別では『賄える』は小学1年、小学5年、中学2年の保護者で 50%を超えているが、16 歳・17 歳の保護者では『賄えない』が 50%を超えている。

生活困難度別では、困窮家庭で「十分に賄える」が 3.5%と周辺家庭や一般家庭より少ない。

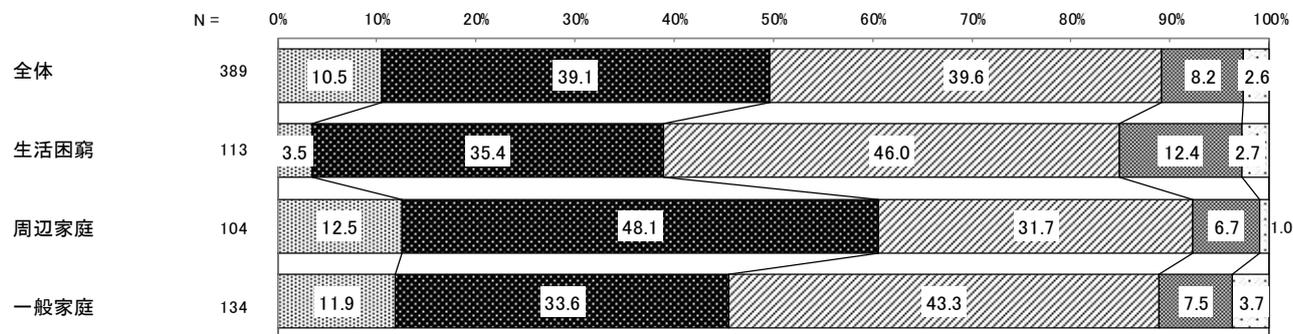
就学援助費等で就学費用を賄うことができるか[%]

☐十分に賄える ■だいたい賄える ▨十分には賄えない ■ほとんど賄えない □無回答



就学援助費等で就学費用を賄うことができるか[%]

☐十分に賄える ■だいたい賄える ▨十分には賄えない ■ほとんど賄えない □無回答



問 51 「2 利用していない」と回答した方にお伺いします。受け取っていない理由は、何ですか。

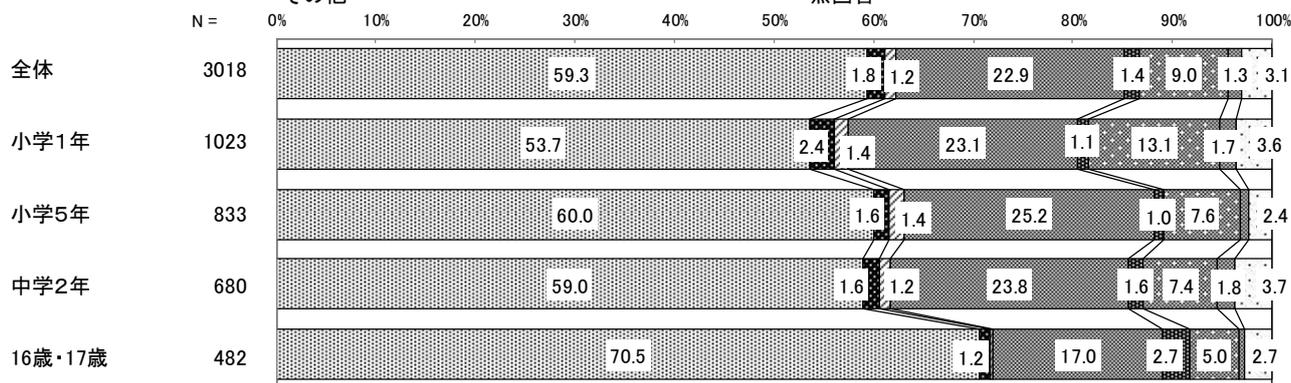
全体では、「申請要件を満たしていなかったため、申請しなかった」が 59.3%を占めている。

学年別では、16 歳・17 歳の保護者で 70.5%と多い。

困窮家庭で「申請の仕方がわからなかったため、申請しなかった」が 6.6%、「申請することに抵抗があったため、申請しなかった」が 7.6%と全体に比べてやや多く、「必要ないと判断したため、申請しなかった」が 8.1%と全体に比べて少ない。

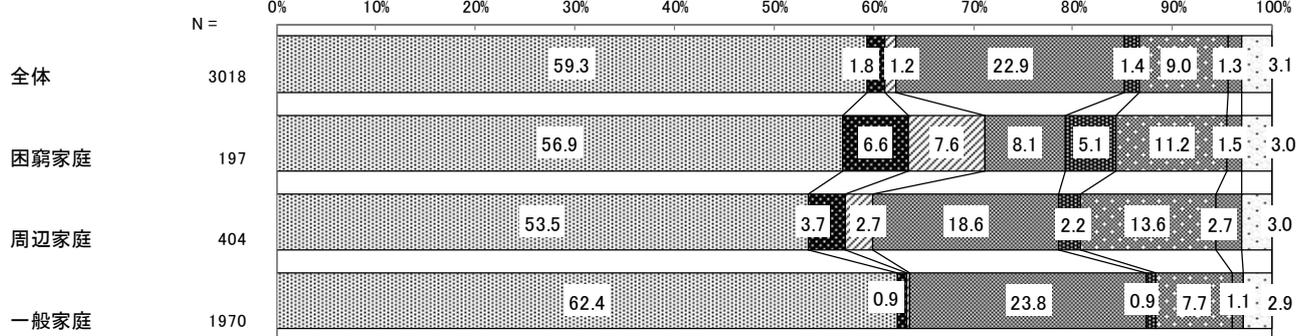
就学援助費等を受け取っていない理由[%]

- 申請要件を満たしていなかったため、申請しなかった
- 申請することに抵抗があったため、申請しなかった
- 申請したが、認定されなかった
- その他
- 申請の仕方がわからなかったため、申請しなかった
- 必要ないと判断したため、申請しなかった
- 就学援助制度を知らなかった
- 無回答



就学援助費等を受け取っていない理由[%]

- 申請要件を満たしていなかったため、申請しなかった
- 申請することに抵抗があったため、申請しなかった
- 申請したが、認定されなかった
- その他
- 申請の仕方がわからなかったため、申請しなかった
- 必要ないと判断したため、申請しなかった
- 就学援助制度を知らなかった
- 無回答



問 52 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の 1 回あたりの支給額はいくらですか。

児童手当の受給家庭は全体の 70.9%である。児童扶養手当の受給家庭は 4.6%で、困窮家庭では 15.9%と他の区分に比べて多い。特別児童扶養手当の受給家庭は全体の 2.9%である。

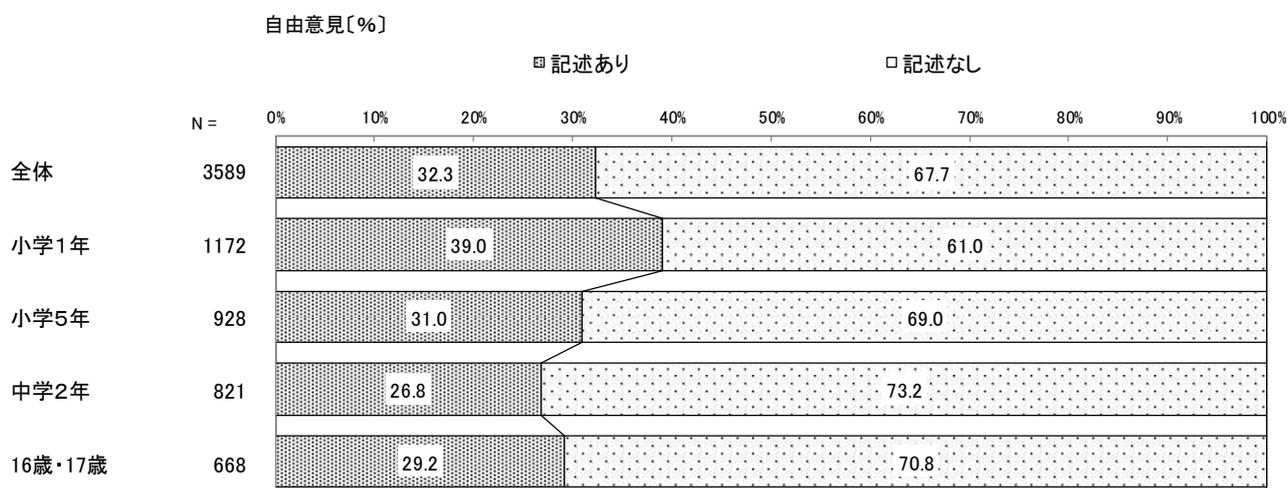
調査では実際の受給額を聞いたが、無回答及び不正確と思われる回答が多数を占めたため、ここでは受給の有無についての結果を掲載することとめている。

N=3,589

（%）		受給している	受給していない	無回答
児童手当	全体	70.9	8.6	20.5
	困窮家庭	70.4	10.2	19.5
	周辺家庭	73.4	6.8	19.8
	一般家庭	77.4	9.8	12.8
児童扶養手当	全体	4.6	46.5	49.0
	困窮家庭	15.9	41.9	42.2
	周辺家庭	9.9	39.2	50.9
	一般家庭	2.1	53.2	44.7
特別児童扶養手当	全体	2.9	49.0	48.1
	困窮家庭	5.4	49.7	44.9
	周辺家庭	3.9	44.9	51.3
	一般家庭	2.8	54.4	42.9
年金 (遺族年金、 老齢年金など)	全体	3.7	48.0	48.4
	困窮家庭	5.4	49.1	45.5
	周辺家庭	4.4	44.1	51.5
	一般家庭	3.8	53.0	43.1
生活保護	全体	0.0	51.0	49.0
	困窮家庭	0.0	53.0	47.0
	周辺家庭	0.0	45.8	54.2
	一般家庭	0.0	56.3	43.7

問 53 あなたが今、子育てで困っていることや悩みごと、子育てに関する意見がありましたら、ご自由にお書きください。

全体で 32.3%が記述しており、小学 1 年の保護者で 39.0%とやや多い。



[自由意見のまとめ上位5項目-小学1年保護者]

順位	内容	件数
1位	子どものこと(勉強・性格・様子)について	84件
	・学習意欲がなく、学校の勉強についていけなくなっている気がして、心配である。 ・一人遊びができない。わがまますぎる。飽きっぽい。集中力がない。	
2位	施設・居場所・遊び場(公園)について	80件
	・小学生が放課後安心して過ごせる場所が近くにない。公民館など、地域の協力を頂いて、子どもの安全を確保できるようになると嬉しい。 ・両親、共働きをしていく中で、学校終了後、児童館を利用しているが、金額が高いのでもう少し安くしてほしい。	
3位	子育て・しつけについて	59件
	・どのように叱っていいかわからない。いつも怒ってしまう。 ・わがままと障がいの違いがわからず、注意の仕方に悩んでいる。	
4位	仕事(給料)、家庭との両立、職場の理解について	51件
	・仕事と子どもとの時間の確保。そのバランスによる収入の増減。 ・父子家庭だが、仕事が定時に終わらず、一緒にご飯を食べられないことが多く、さみしい思いをさせているようで悲しい。働き方の意識改革をみんなが進めていきたい。	
5位	教育環境(教員、授業、設備)について	45件
	・教員の指導能力が低い。 ・子どもの良いところを伸ばして、自信をもって生活していく力をつけてほしい。	

[自由意見のまとめ上位5項目-小学5年保護者]

順位	内容	件数
1位	子どもの性格・様子について	43件
	・子どものひとりに障がいがあるため、就学や体調について心配である。 ・子どもの食の好き嫌いがあり、食が少し細く、栄養素が不十分ではないか心配である。 ・片づけをしない。呼んでも返事をしない。何を言っても無視される。	
2位	教育にかかる費用について	41件
	・金銭的余裕がないため、子どもたちに必要な教育を受けさせてあげられるかとても不安である。 ・子どもの教育にかかる費用の軽減を望む。 ・教育の無償化を実施してほしい。	
3位	教育環境(教員、授業、設備)について	40件
	・子どもにとって家庭以外で身近な頼りたい大人は学校の先生であると思うが、肝心の先生が頼りないと感じる。先生の環境や質を変えていく工夫があるとよい。 ・学校の各教室に1日でも早くエアコンの導入を望む。毎年熱中症で体調不良になる。	
4位	行政への要望等について	36件
	・病院で窓口支払いを無料にしてほしい。後から振り込まれるより良いと思う。 ・高校大学に向けた無料の塾(特に英語など)の充実や、大学進学費用の無利子貸し付けなどの充実に力を入れたら学力向上に繋がると思う。	
5位	仕事(給料、職場の理解など)について	24件
	・お金がかかる。職場の理解がない。仕事を休みにくい。 ・仕事に追われ、子どもと関わる時間がない。	

[自由意見のまとめ上位5項目-中学2年保護者]

順位	内容	件数
1位	教育費について <ul style="list-style-type: none"> <li>・兄達が大学・大学院進学を望んでいるので希望をかなえてやりたいが費用の工面が大変である。親の負担軽減を少しでもしてもらえたらと思う。</li> <li>・高校・大学の進学にかかる費用を準備できるか不安である。奨学金制度も本人への負担になるため心配である。</li> <li>・子どもを教育する上で経済的に苦しく、やってあげたいこと(習い事)など我慢させてしまっている。</li> <li>・父親が定年退職となったため、母親の収入で必要な教育費等を支払えるか不安である。</li> </ul>	36件
	思春期・反抗期について <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生になり、友人関係で悩んだり、学校に行きたくないということがあったりして、小学校とは違う難しさがある。思春期、反抗期、またもともと育てにくい面もあり、結構大変である。</li> <li>・思春期に入った子どもに対して、どのように接したらよいのか迷うことがある。</li> </ul>	
2位	子育てについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・同居家族の理解が乏しいので子どもの味方ができない。心がかなり苦しいと思うがなかなかうまくフォローができない。祖父母やおばが強いので家の中に居辛い。</li> <li>・もっと男性が育児だけでなく家事をやるように啓発してほしい。</li> <li>・共働きなので、子に関わる時間が少なく感じるが、祖父母の協力もあり、大変助かっていると思う。子の友人の母たちとの意見交換などで、自分の思いを共有することで悩みが解決することもある。一人で抱えてしまうこともあるが、どこかではけ口となれるようにすることで、私自身も成長できるようにしていきたい。</li> </ul>	11件
	PTAや部活動での親の負担について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり親で子どもが3人おり仕事もしているのでPTA活動・役員選出が苦痛である。人数が少ない学校だと必ずやらなければならない、仕事を休んだり休日に行かなければならなかったり、夜集まったりとかなり負担である。</li> <li>・部活動など、必ず送迎が必要になる。かなり親の負担が大きいので大会の開催を会場から考えるか学校(部活)側で送迎まで含めた運営を行ってほしい。中学・高校まで親が関わりすぎである。</li> </ul>	
5位	スマホ・ゲーム・ネット <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ携帯電話は持たせていないが今後スマホを持った子どもとのルールについてどうするか悩んでいる。</li> <li>・現在でもあることだが、LINEやSNSで子どもが変な環境に巻き込まれないか、それが原因で人間関係が崩れないかなど、目に見えないトラブルが無い未来を迎えてほしい。</li> </ul>	8件
	医療費について <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費が窓口無料になってくれるとありがたい。子どもが3人いると、何かと医療費がかかってしまう。</li> <li>・児童手当、医療費を負担してくれる年齢を高校3年生までにしてほしい。</li> </ul>	
	教育環境について <ul style="list-style-type: none"> <li>・暑くて集中できないので高校にクーラーを入れてほしい。収入の差が学力の差といわれるのはおかしいと思う。もっと学校でしっかり教えてほしい。わからない子は塾に行けばよいということではなく、先生に気軽に聞けるようにしてほしい。</li> <li>・中学・高校とも学校だけの学習では希望の進学が難しい状況である。補習授業の実施、土曜授業や長期休業の短縮などで、授業時間を増やしてほしい。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位5項目-16歳・17歳保護者]

順位	内容	件数
1位	教育にかかる費用(学費、進学費)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学費(高卒後)を払えるかが心配。</li> <li>・大学進学資金が足りない。支援制度を利用したい。</li> </ul>	49件
	子どもの性格・様子について <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで学習する気になれず、自信を失っている様に見える。やる気と自信を取り戻してほしい。</li> <li>・将来の明確な目標・目的を持たせるにはどうしたらよいのか悩んでいる。</li> </ul>	
3位	行政への要望について <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生になると就学支援金以外が全く無くなってしまうので出費がとて多くなった。医療費控除が高校卒業までであると助かる。</li> <li>・長野子育て家庭優待パスポートを大変活用させて頂いているが、18歳までなので20歳まで使えると助かる。</li> </ul>	26件
	教育環境(教員、授業、設備)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが興味や関心の持てる魅力的な授業を希望する(学校)</li> <li>・高校、学校の校舎、設備を充実させてあげてほしい。学食はあった方がいい。</li> </ul>	
5位	家庭環境(家計、家族との関係)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・娘、息子ともにスマホばかりさわっていて親子の会話が少ない。</li> <li>・配偶者が家族のために何か行動することがなく(駅への送迎等)、自分のことしか考えていない所が困っている。</li> </ul>	22件